

奈良地区遺跡群

(奈良原遺跡)

土地改良総合整備事業奈良地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査の概要

1991

沼田市教育委員会

奈良地区遺跡群

(奈良原遺跡)

土地改良総合整備事業奈良地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査の概要

1991

沼田市教育委員会

序 文

ここ数年における沼田市は、各地区における大規模な土地改良事業をはじめ工業団地の造成、国道17号バイパスの建設計画等により大きく変貌しつつあります。これら大規模な事業区内には遺跡（埋蔵文化財）が存在することも多く、関係機関の協力を得て破壊される前に発掘調査が実施され、記録保存されるようになってまいりました。しかし、公的遺産である埋蔵文化財の多くは、日々消滅の危機にさらされてその保護対策が急務となっています。

今回の発掘調査は、平成元年度に実施された土地改良総合整備事業奈良地区に伴う事前調査であります。付近には、市指定文化財の奈良古墳群が存在して、注目度の高い地区でありました。この成果は奈良地区においてはもちろんのこと、沼田市においても古代史解明の重要な資料となることでしょう。

最後になりましたが、本調査実施にあたり終始御指導・御協力いただきました関係者の皆様に心から厚く感謝の意を表し序文といたします。

平成3年3月

沼田市教育委員会

教育長 萩 野 明 正

例 言

1. 本報告書は、土地改良総合整備事業奈良地区に係る埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
2. 「奈良原遺跡」は、群馬県沼田市奈良町字原1077番地外に所在する。
3. 発掘調査は、平成元年12月1日～平成2年1月12日まで実施し、整理作業は平成3年3月まで行なった。
4. 発掘調査及び整理作業は、沼田市教育委員会が文化庁の補助事業として、また農政関連の委託金を受けて実施したものである。
5. 調査整理体制は以下の通りである。

平成元年度		平成2年度	
教 育 長	佐藤 国利	教 育 長	佐藤 国利(平成2年9月退任)
教 育 次 長	松井 誠二		荻野 明正(平成2年10月就任)
社会教育課長	藤井 章二	教 育 次 長	松井 誠二
文化財保護主事	都丸 肇(担当)	社会教育課長	角田 卷由
社会教育主事	小池 雅典(担当)	文化財保護係長	都丸 肇
主 事	宮下 昌文(担当)	社会教育主事	小池 雅典
		主 事	宮下 昌文

6. 本書の執筆は小池 雅典、編集は都丸 肇が行なった。
7. 本遺跡の資料は、沼田市教育委員会が沼田市文化財調査事務所収蔵庫で保管している。
8. 発掘調査及び本書の作成において次の方々から御指導・御協力をいただいた。記して感謝申し上げます。(敬称略)

群馬県教育委員会文化財保護課、奈良土地改良組合、沼田市経済部農政課、青木 一好

凡 例

1. 第1図は、国土地理院発行の2万5千分の1「沼田」「後閑」を使用した。
2. 第2図は、沼田市発行の2千5百分の1「都市計画図3」を使用した。
3. グリットの名称は北東ポイント名を使用した。
4. 図中の方位は、磁北を表す。
5. 図中に記載した断面基準線の数字は海拔高である。
6. 遺構図・遺物図は、基本的にはそれぞれ以下のように統一したが、遺物で縮尺が異なる場合は表示した。

全体図1/400 住居址1/60 炉・カマド1/30 堀1/200 遺物1/3

目 次

序 文

例 言

凡 例

I 調査に至る経緯と遺跡の環境	2
1. 調査に至る経緯	2
2. 遺跡の位置と環境	2
3. 周辺の遺跡	2
II 調査の方法と遺跡の概要	7
1. 調査の方法	7
2. 遺跡の概要	7
3. 基本層序	7
III 検出された遺構と遺物	8
[縄文時代]	8
[弥生時代]	17
[平安時代]	26
[中世以降]	28

写真図版

I 調査に至る経緯と遺跡の環境

1. 調査に至る経緯

昭和62年度から開始された土地改良総合整備事業奈良地区には、分布調査の結果から埋蔵文化財の存在が予想された。平成元年度工区（原地区）においても当初より埋蔵文化財の存在が予想されたため、試掘調査を実施したところ、当地が遺跡地であることが判明した。前年度と同様、農政課と協議した結果、遺跡の破壊が予想される道水路建設予定地及び掘削地について、発掘調査を実施して記録保存することとなった。

2. 遺跡の位置と環境

奈良地区遺跡群は、沼田市の中央部やや東側に所在する。この地区は、南流する発知川の左段丘面で、西側には低い丘陵がせまる幅の狭い平坦地である。「奈良原遺跡」は、段丘先端に位置し、川からの距離30m、比高差も30mを測る。調査前の現況は畑地であった。

3. 周辺の遺跡

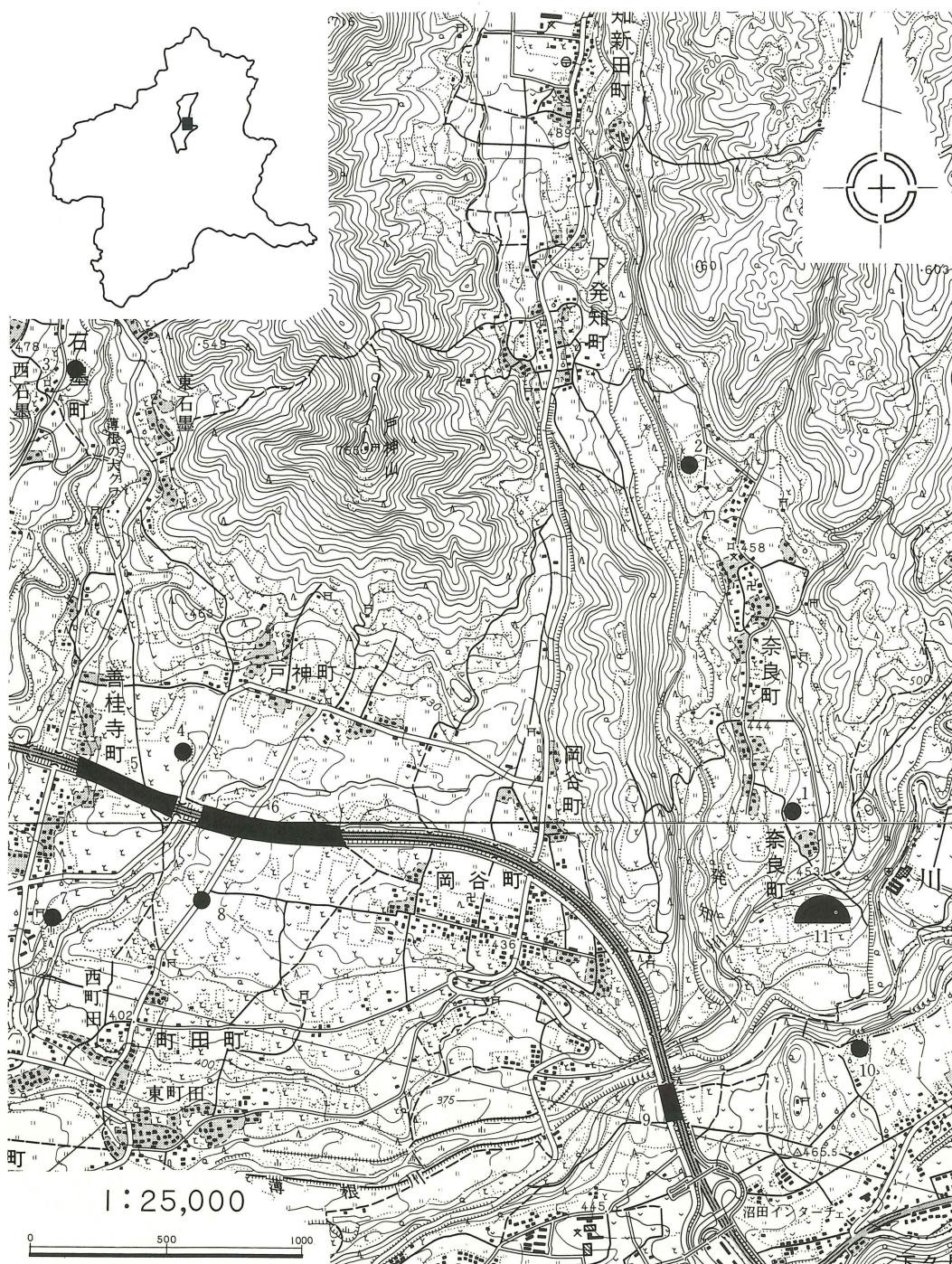
旧石器時代の遺物が確認されているのは周辺地では少なく、戸神諏訪遺跡（6）からナイフ等が出土しているのみである。

縄文時代になると遺跡数も多くなり各地で遺物が確認されるようになる。寺入遺跡（3）からは、中期を中心とした住居址等が多量の遺物とともに検出されており、石墨遺跡（5）戸神諏訪遺跡からも住居址や落とし穴が確認されている。

弥生時代になると一時、遺跡は確認されなくなるが、後期の後半になると各地で集落址が検出されるようになる。奈良地区では奈良原遺跡（2）その他の地区でも前述した戸神諏訪遺跡・石墨遺跡をはじめ鎌倉遺跡（9）戸神吉田遺跡（4）町田小沢遺跡（7）等を挙げることができる。

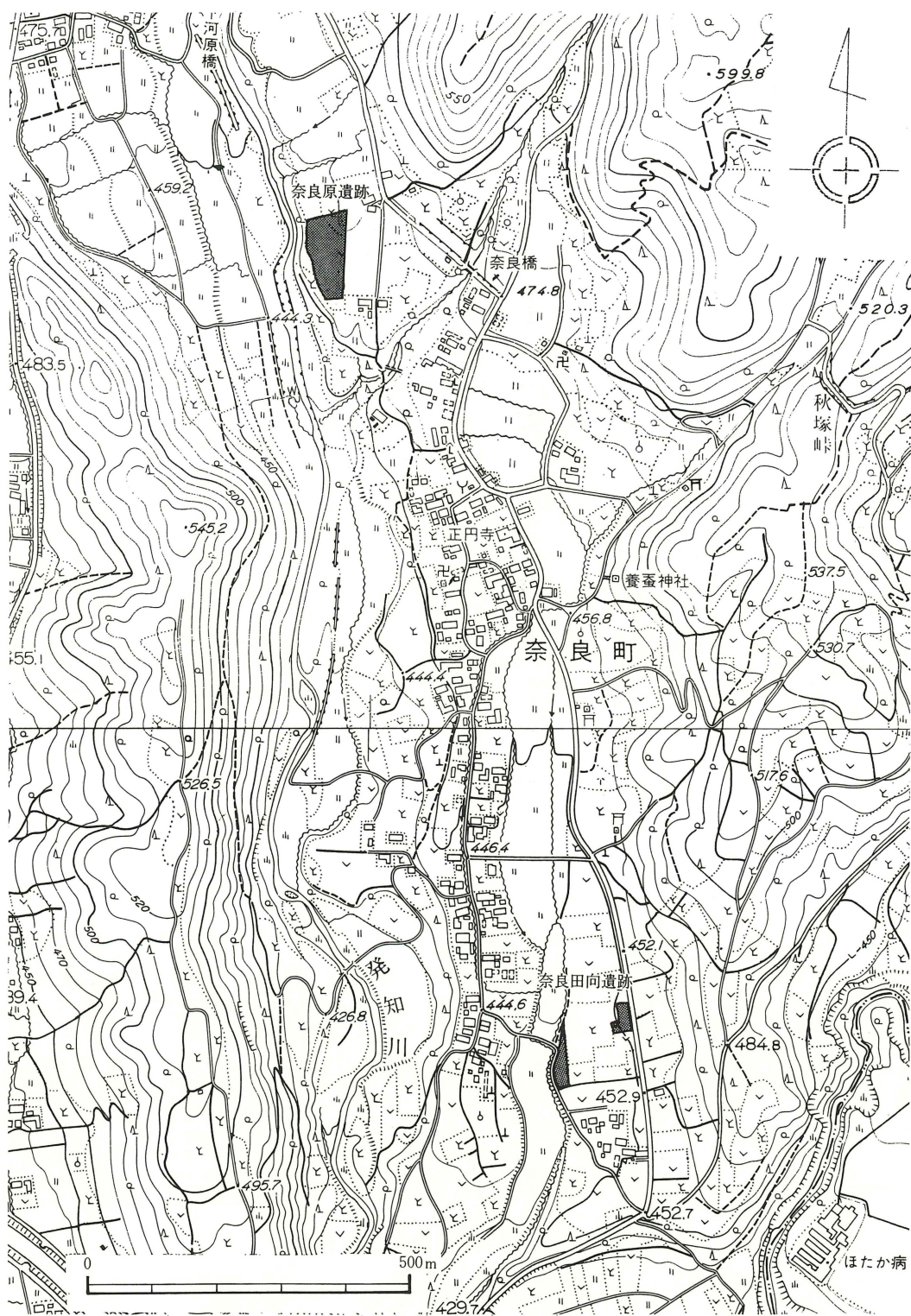
古墳時代は、前期には前時代の遺跡と重複していることが多いが減少傾向にある。戸神諏訪遺跡・石墨遺跡・清水遺跡（10）が代表例である。後期の住居址は石墨遺跡から検出されているが、周辺遺跡からは検出されていない。古墳は、ほとんど後期に属し山裾に築造されることが多い。奈良古墳群（11）は現在でも多くの古墳が残っており貴重な存在である。

奈良時代の遺跡は周辺地では少なく、平安時代に入り増大する傾向が認められる。戸神諏訪遺跡・石墨遺跡・土塔原遺跡（8）・町田小沢遺跡から集落址が検出されている。



第1図 遺跡の位置と周辺の主な遺跡

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 奈良田向遺跡 | 2. 奈良原遺跡 | 3. 寺入遺跡 | 4. 戸神吉田遺跡 |
| 5. 石墨遺跡 | 6. 戸神諏訪遺跡 | 7. 町田小沢遺跡 | 8. 土塔原遺跡 |
| 9. 鎌倉遺跡 | 10. 清水遺跡 | 11. 奈良古墳群 | |



第2図 調査地と周辺の地形



第3図 奈良原遺跡全体図 (1/400)

Ⅱ 調査の方法と遺跡の概要

1. 調査の方法

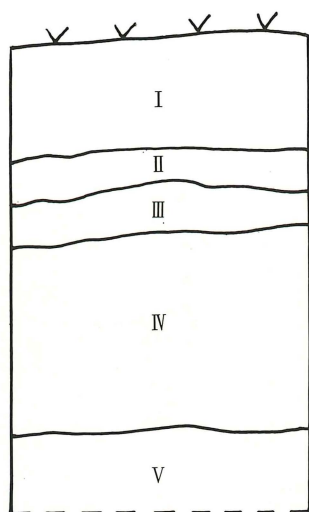
農政課との協議の結果、道水路建設予定地及び大幅掘削部分で遺構の確認された部分を調査対象地とした。重機により、すでに試掘調査で把握していた遺構の確認面まで掘り下げて調査を実施した。本遺跡は時代の異なる遺構が同一面で確認できたことから、調査区域の方向に合せ1辺5mグリットを設定し、遺物・遺構の作図を行った。図面は、遺構の大きさにより1/10 1/20 1/40のいずれかを適宜選択した。全体図は、1/100で20cmのコンタを入れて作成した。

2. 遺跡の概要

本遺跡からは、縄文時代前期の住居址8軒と弥生時代の後期後半の住居址7軒、平安時代の住居址2軒、中世の堀、墓址その他時期不明の竪穴状遺構や土壇等が検出されている。

3. 基本層序

奈良原遺跡においては、表土層下がすぐに確認面となる部分が多かったので、比較的土層の乱れの少ない調査区中央部分を基本の層序とした。



I層 表土層、二ツ岳軽石混じる耕作土

II層 暗褐色土層、ローム粒子若干含む

III層 暗黄褐色土層、ローム漸移層

IV層 ローム層

V層 灰褐色土層、粘質土

(1/40)

第4図 基本層序

Ⅲ 検出された遺構と遺物

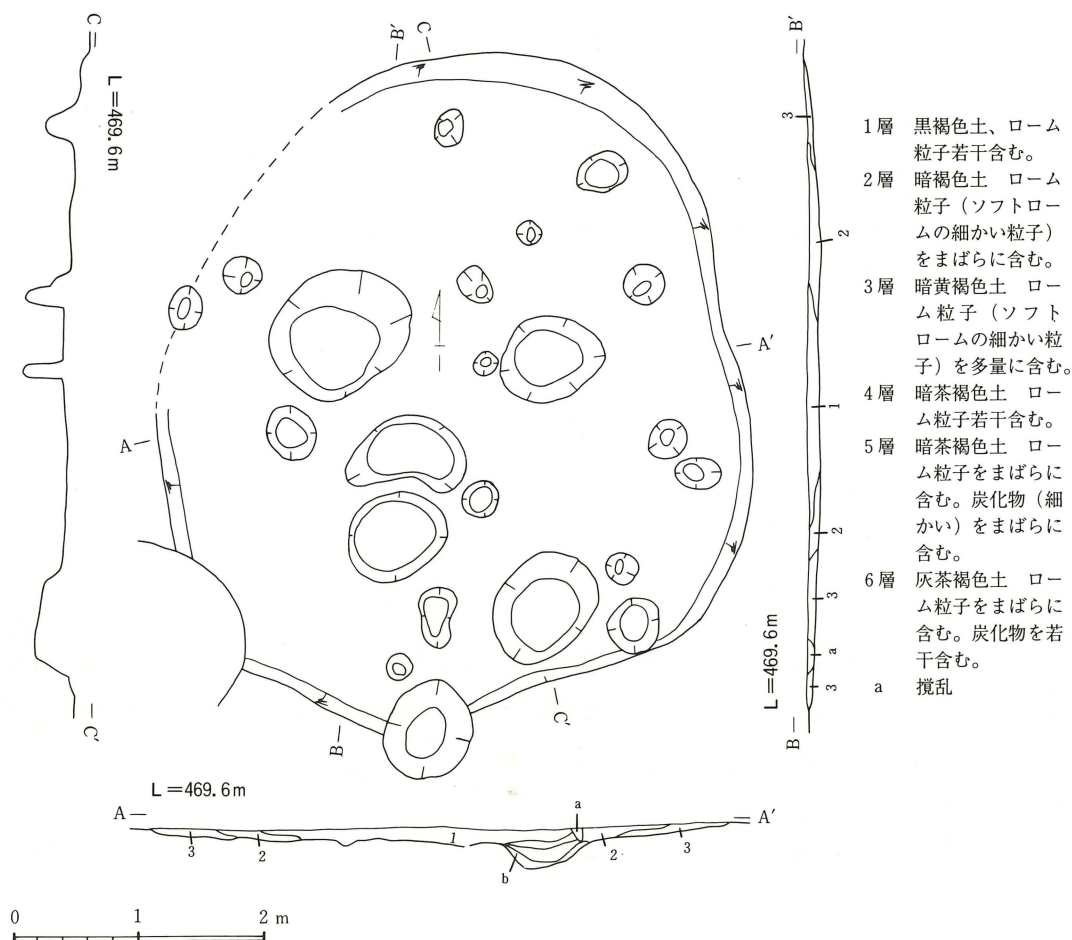
[縄文時代]

4号住居址（第5図）

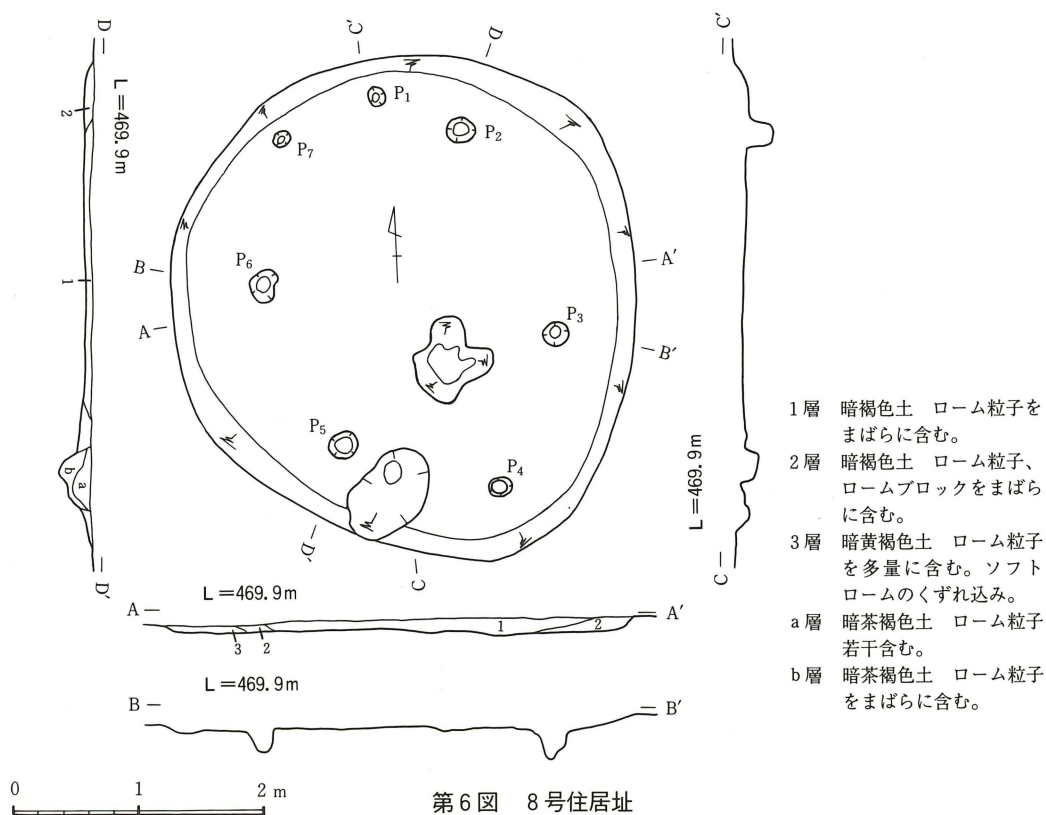
M-6・7グリットに位置する。不整楕円形を呈する住居址で、南北5.14m東西4.71m、確認面からの深さは北側で7cmを測る。柱穴と想定されるピットは多数検出されたが、壁に沿った穴の掘り方が明瞭である。土壌状の掘り込みは、4基検出された。

炉は検出されなかった。

出土遺物は僅かであるが、土器片が出土している。



第5図 4号住居址



8号住居址（第6図）

M-2・3、N-2・3グリットに位置する。不整楕円形を呈する住居址で、南北3.97m東西3.70m確認面からの深さは東側で10cmを測る。柱穴と想定されるピットはP₁～P₇の7本検出された。土壌は不定形で、住居南半分で2基検出された。

炉は検出されなかった。

出土遺物は皆無である。

10号住居址（第7図）

D-8・9、グリットに位置する。不整楕円形を呈する住居址で、南北3.97m東西4.30m確認面からの深さは東側で12cmを測る。柱穴と想定されるピットは多数検出されたが、やや東側にまとまっている。土壌は南東壁部分に半分程せりだした状態で検出された。

炉は検出されなかった。

出土遺物は東側に集中していた。块状耳飾りの破片が出土している。

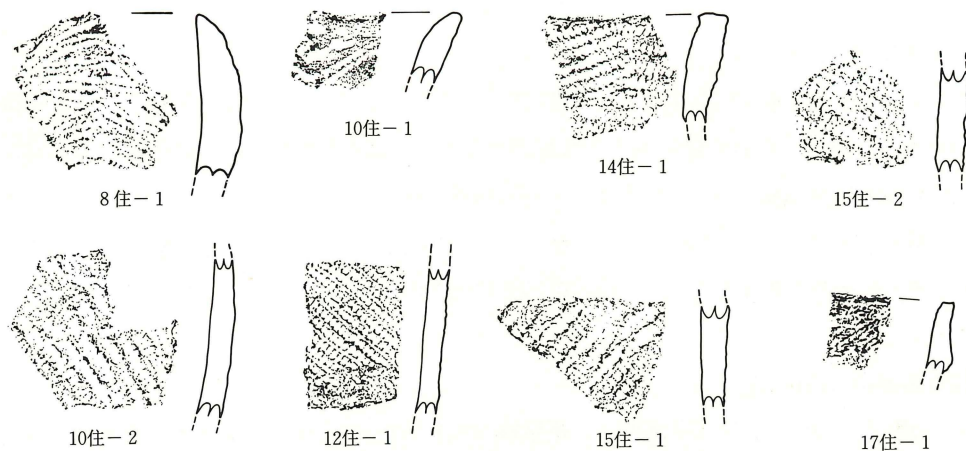
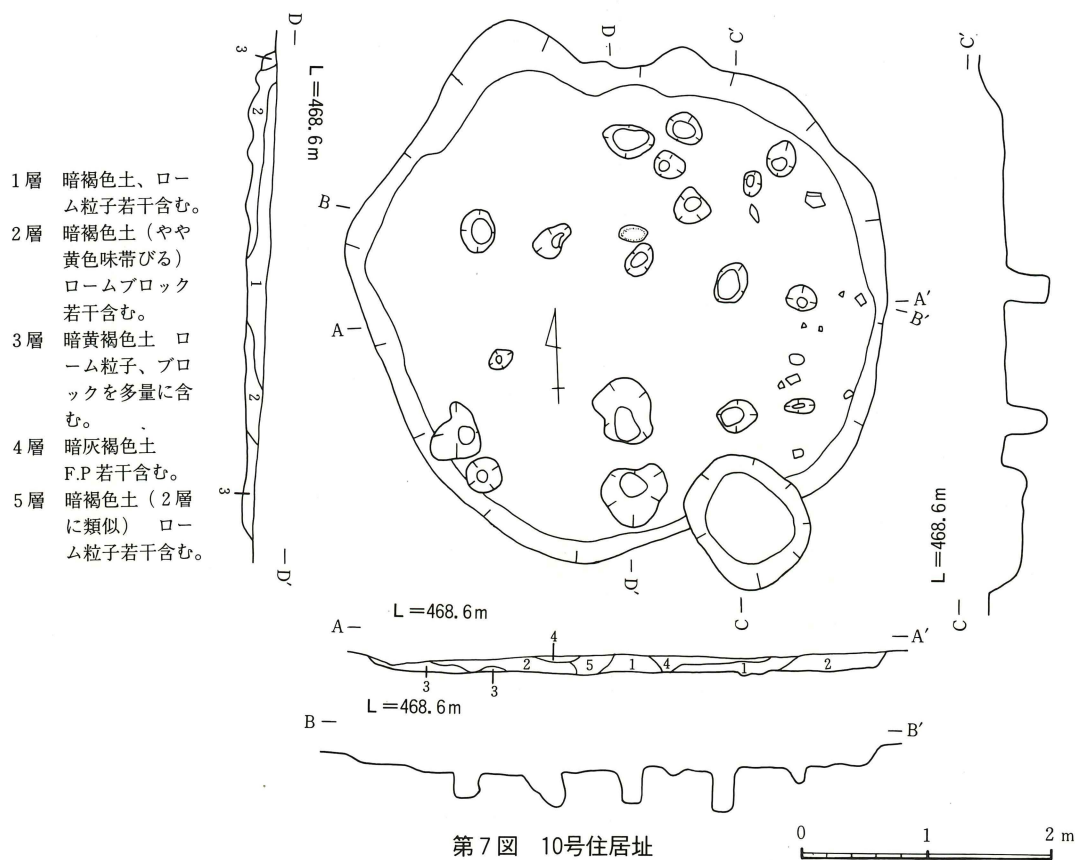
12号住居址（第9図）

N-9、O-9グリットに位置する。不整楕円形を呈する住居址と想定されるが東から南にかけては不明瞭である。推定規模は、南北4.70m東西4.50m確認面からの深さは西側で14cmを測る。北

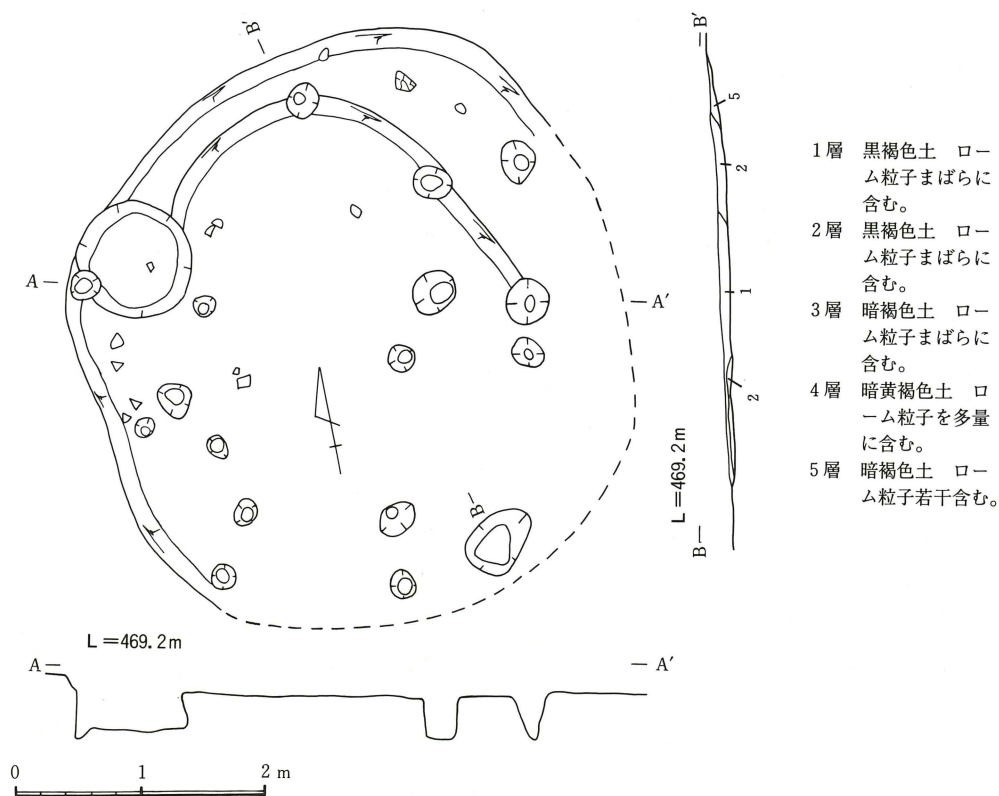
側部分は、外縁から30～90cmのところではあるが一段低くなっている。柱穴と想定されるピットは多く検出された。土壌は西壁際に位置し、断面形はフラスコ状を呈する。

炉は検出されなかった。

出土遺物は僅かであったが、尖底の土器が出土している。



第8図 8・10・12・14・15・17号住居址出土遺物



第9図 12号住居址

14号住居址 (第10図)

K-13・14、L-13・14グリットに位置する。主軸を南東から北西にとった隅丸長方形を呈する住居址で、中央南側を堀によって切られている。長軸は7.25m短軸は4.98mで、確認面からの深さは東側で14cmを測る。柱穴状のピットは住居各辺に沿って検出されている。

炉は検出されなかった。

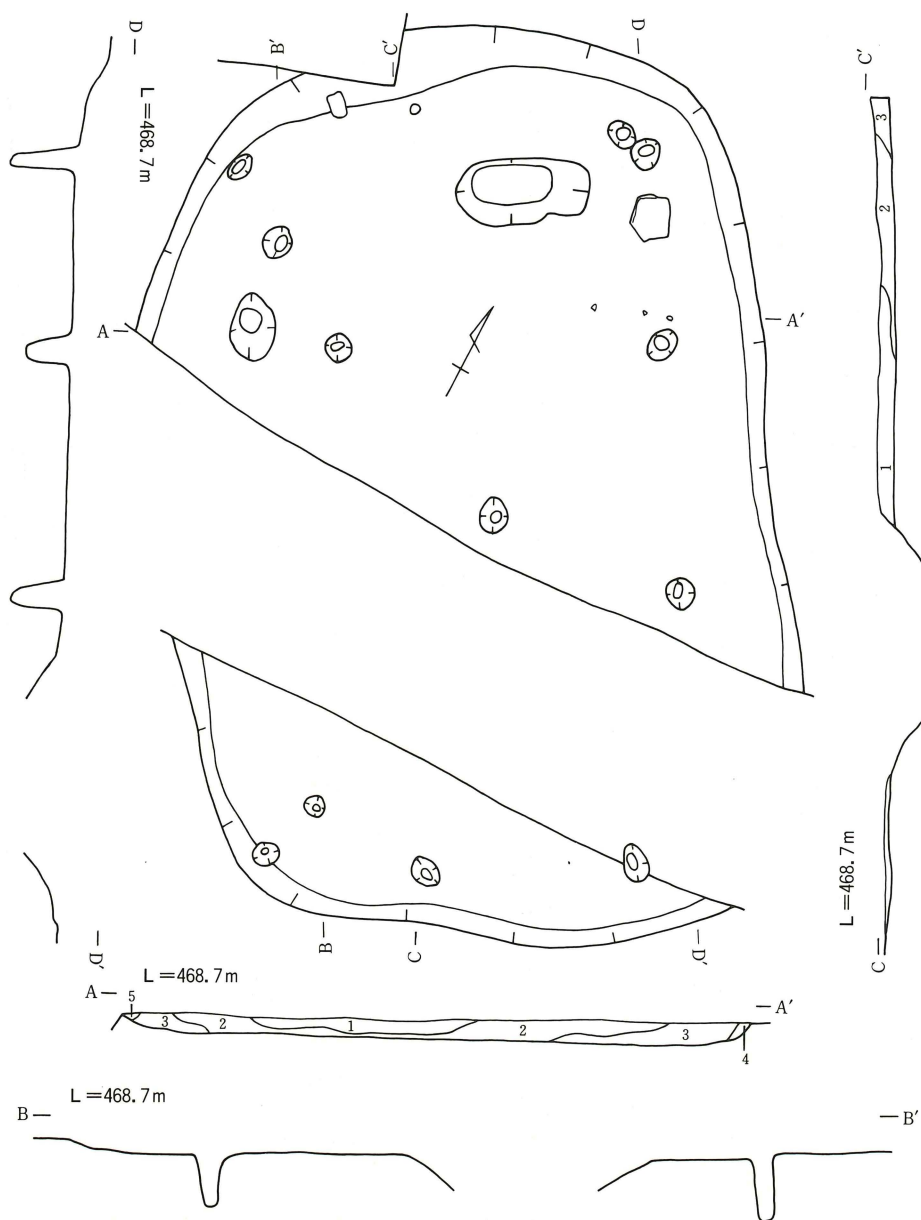
出土遺物は僅かであった。

15号住居址 (第11図)

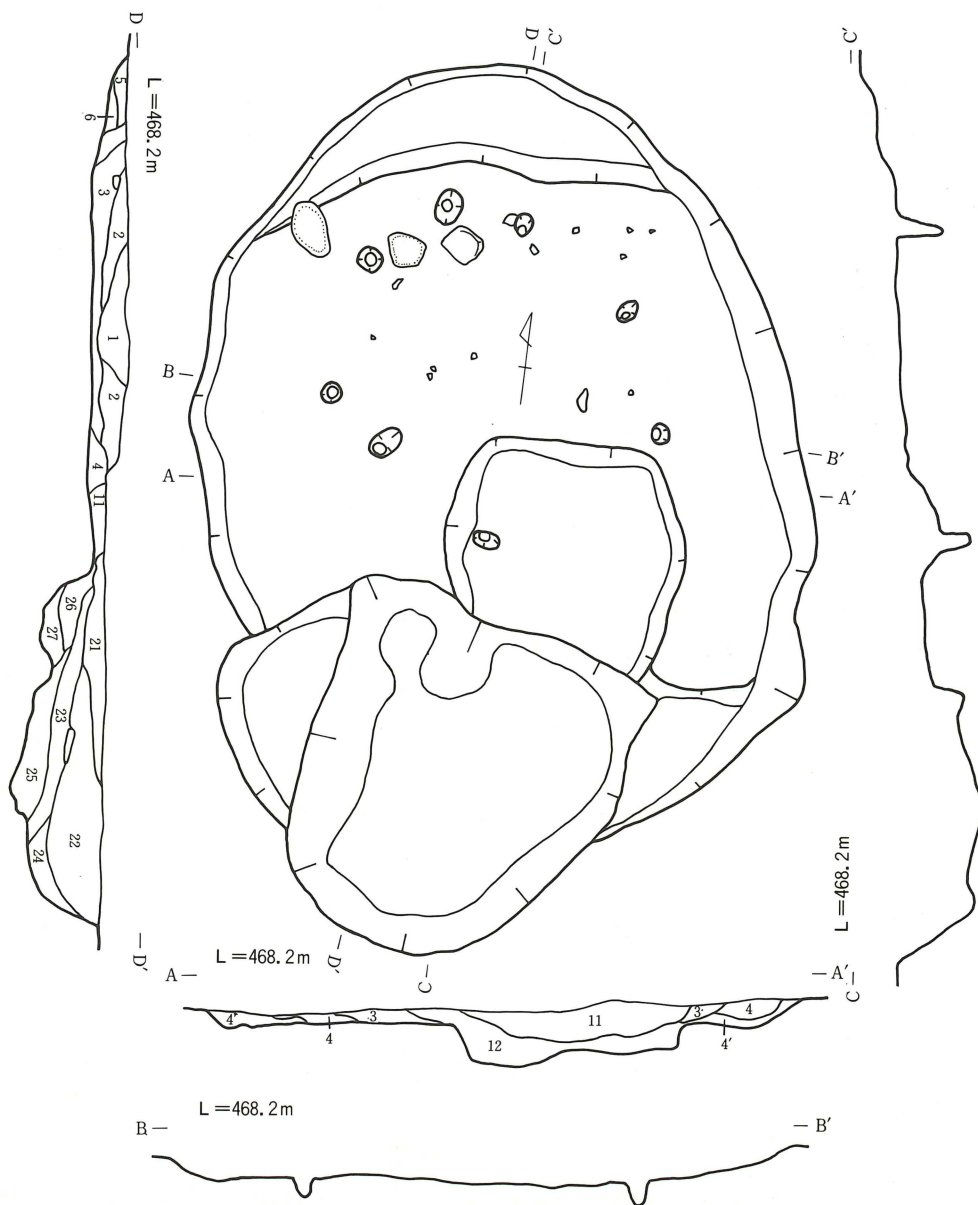
K-18・19、L-18・19グリットに位置する。不整楕円形を呈する住居址と想定されるが、南側は土壌状の堀込みによって攪乱されている。南北4m以上東西4.84mで、確認面からの深さは東壁際で20cmを測る。

炉は検出されなかった。

出土遺物は少量で、北側にまとまって検出された。



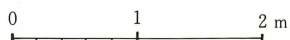
第10図 14号住居址



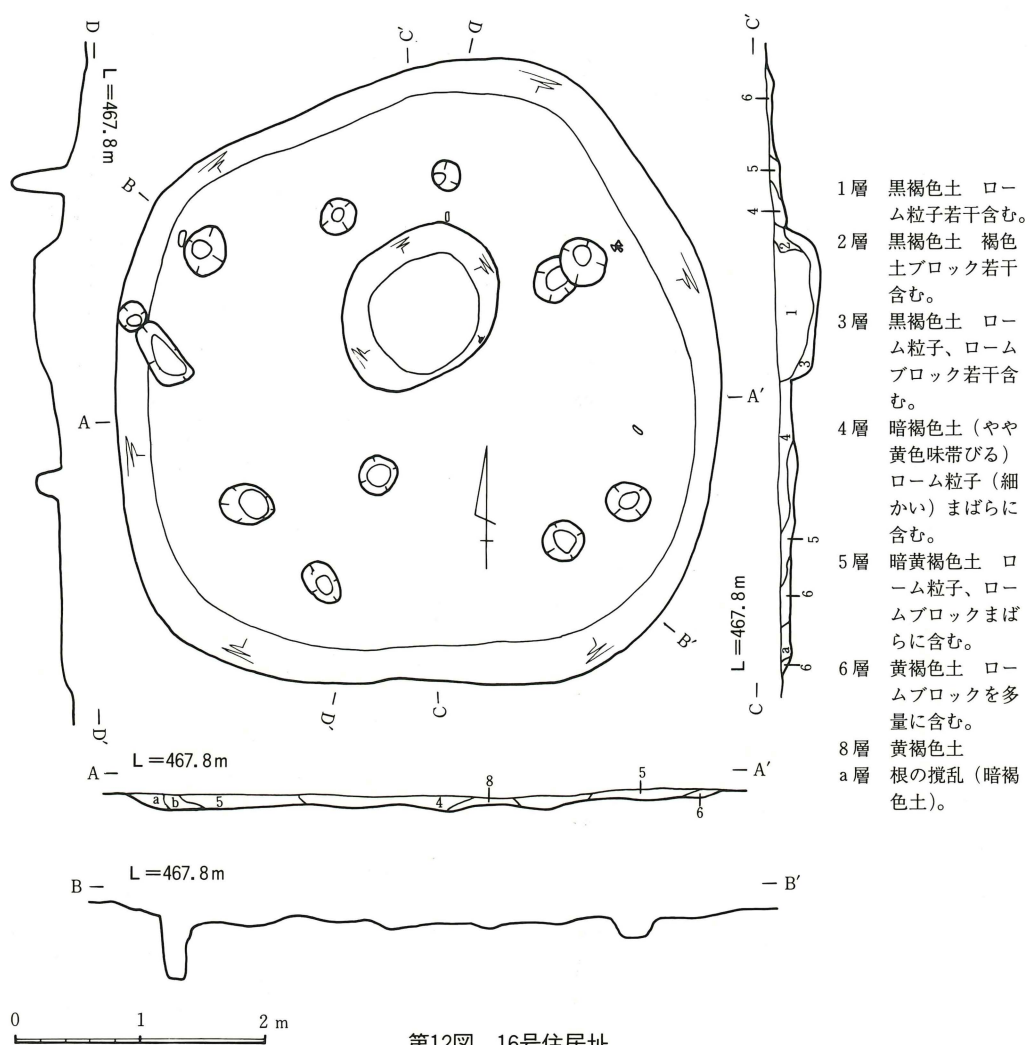
- 1層 暗褐色土 ローム粒子若干含む。
 2層 暗茶褐色土 ローム粒子若干含む。
 3層 黒褐色土 ローム粒子まばらに含む。
 4層 暗灰色土 ローム粒子まばらに含む。ロームブロック若干含む。
 4'層 若干黄色味を帯びた土。
 5層 暗黄褐色土 ローム粒子まばらに含む。

- 6層 黄褐色土 ローム粒子多量に含む。
 11層 暗褐色土 ローム粒子ブロックまばらに含む。
 12層 暗褐色土 ローム粒子ブロック多量に含む。
 21層 暗褐色土 ローム粒子若干含む。F.P粒まばらに含む。
 22層 暗茶褐色土 ローム粒子若干含む。
 23層 暗黄褐色土 ローム粒

- 子まばらに含む。
 24層 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック若干含む。
 25層 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックまばらに含む。
 26層 暗茶褐色土 ローム粒子まばらに含む。
 27層 黄褐色土 ロームブロック多量に含む。



第11図 15号住居址



16号住居址（第12図）

L-20・21、M-20・21グリットに位置する。不整楕円形を呈する住居址で、南北4.82m東西4.82mで、確認面からの深さは西壁側で11cmを測る。ピットは12本検出されたが、明瞭な堀込みが確認されたのは半数である。住居中央は土壌に切られている。

炉は検出されなかった。

出土遺物は僅かであったが、長径3.6cmの小型磨製石斧が出土している。

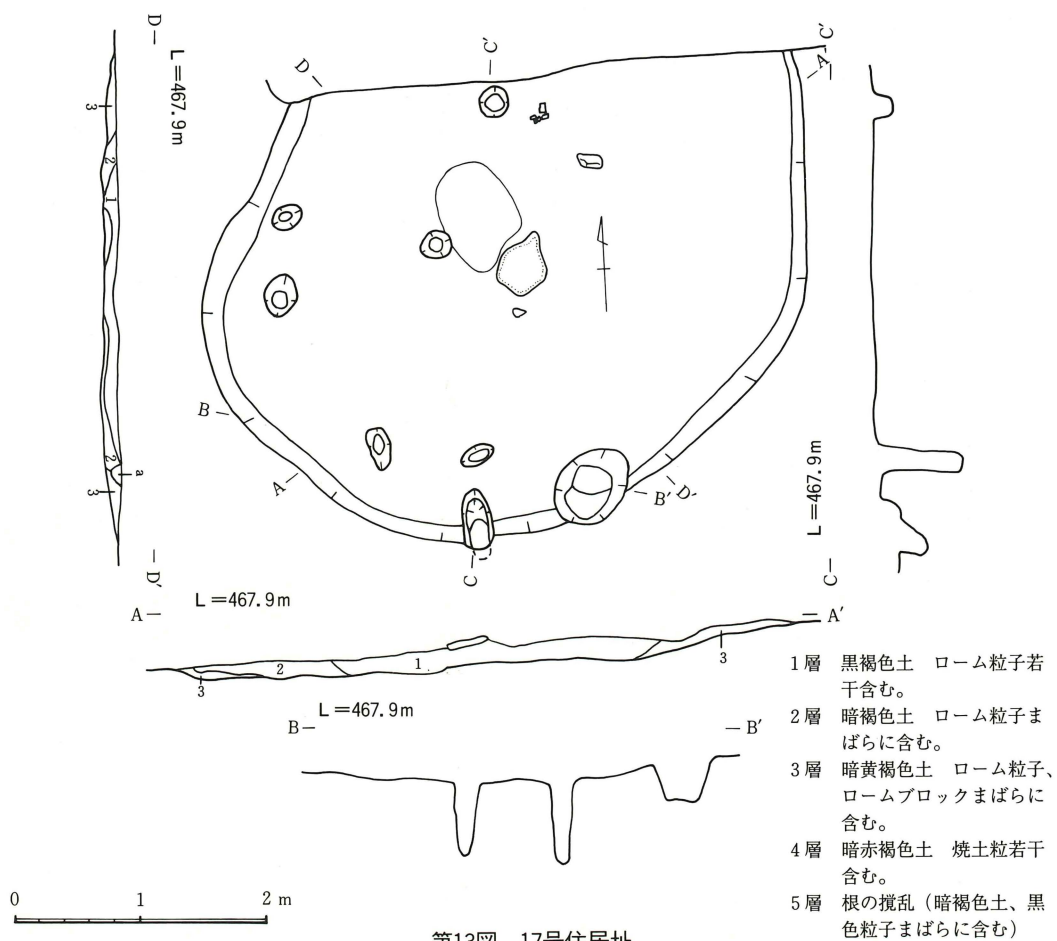
17号住居址（第13図）

I-18・19、J-18・19グリットに位置する。北側は攪乱によって切られているが、不整円形を呈する住居址と想定され、南北3.56m東西4.84mで、確認面からの深さは中央部で17cmを測る。壁の立ち上がりは緩やかで、やや不明瞭であった。ピットは8本検出されたが、住居東側については

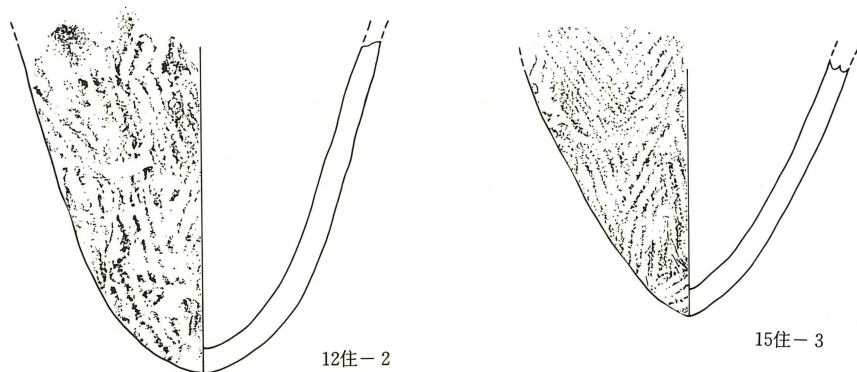
検出されなかった。

明確な炉は検出されなかったが、中央部に焼土が認められた。

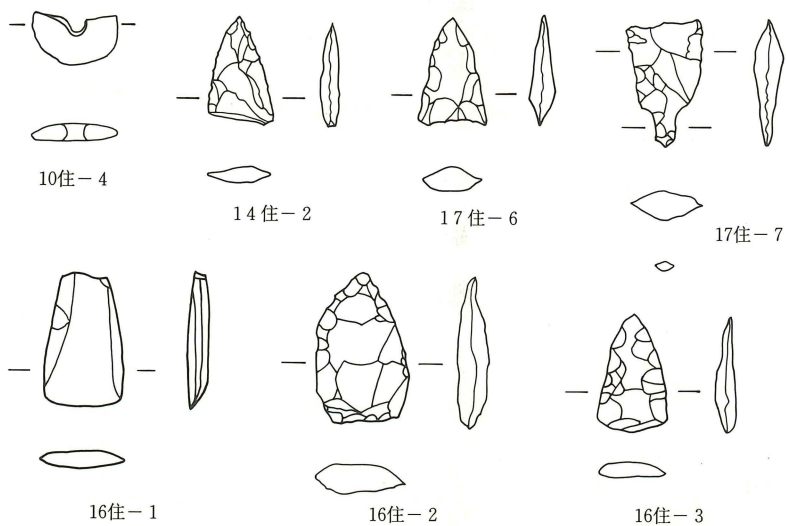
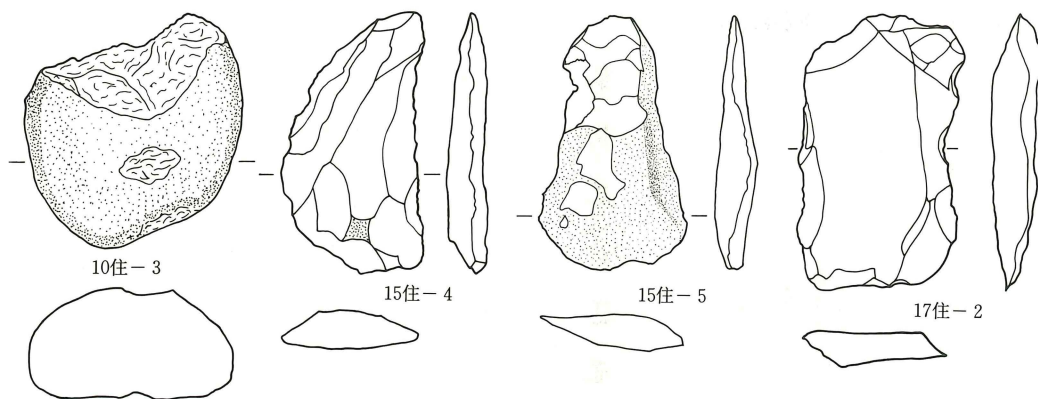
出土遺物は、北側に僅かに検出されたのみである。



第13図 17号住居址



第14図 12・15号住居址出土遺物



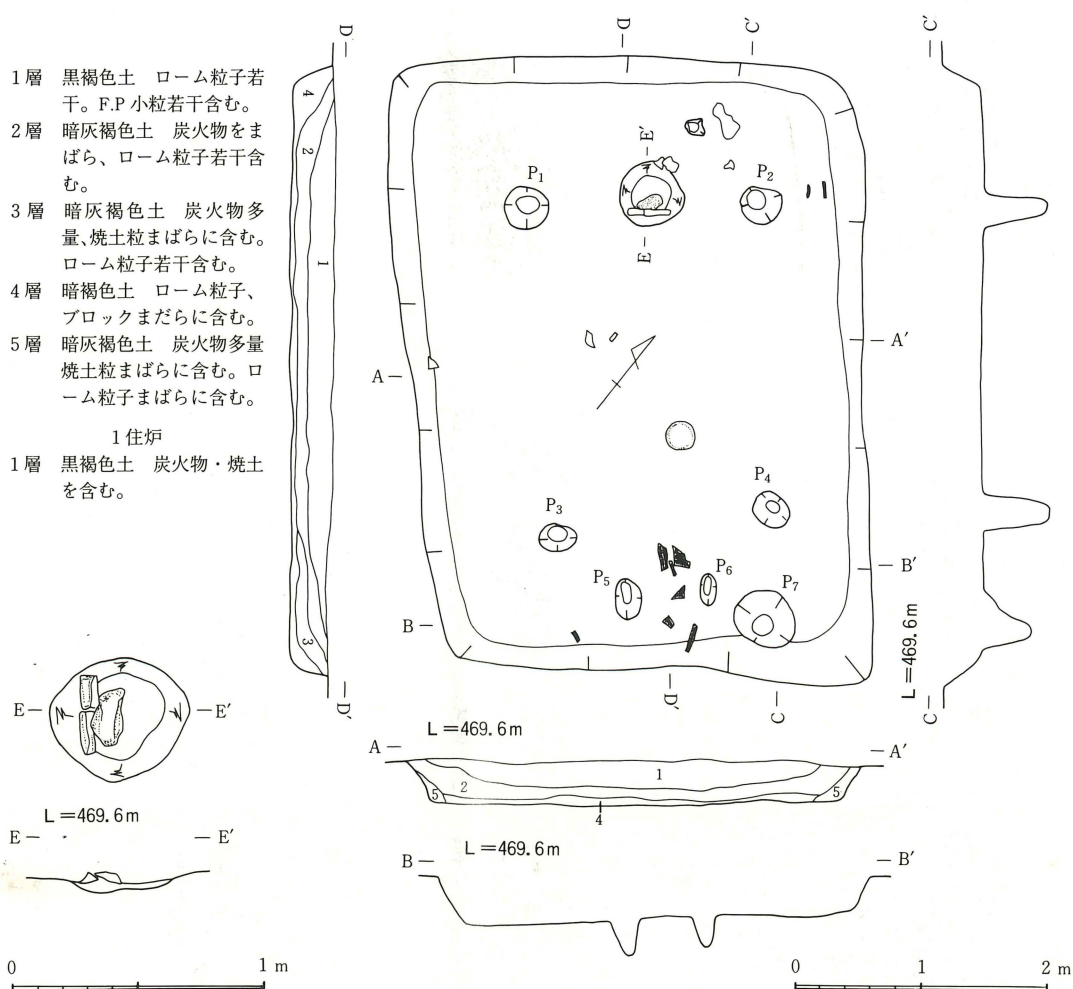
第15図 縄文時代住居址出土遺物（下段1/2）

[弥生時代]

1号住居址（第16図）

K-6グリットに位置する。南東から北西方向に主軸をとる住居址で、長軸3.63m短軸3.63m確認面からの深さは東壁側で34cmを測る。P₁~P₄が主柱穴で、炉は北側柱穴間に位置し、南側に炉石を有する。炉の位置と反対側の壁際には、一対の入口施設用ピットが、またその右側には貯蔵穴が検出された。

出土遺物は僅かであった。

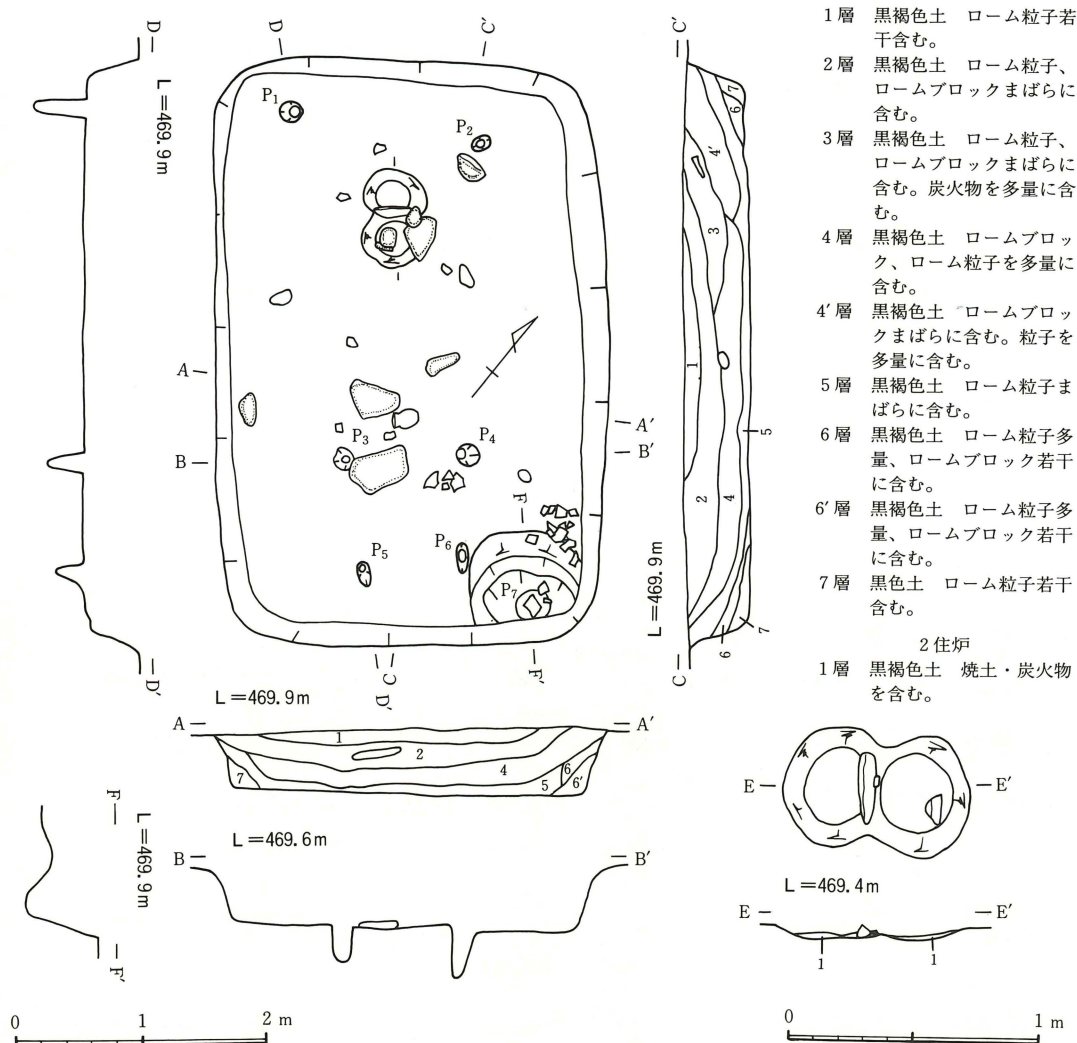


第16図 1号住居址

2号住居址（第17図）

N-3・4、O-4グリットに位置する。南東から北西方向に主軸をとる長方形プランの住居址で、長軸4.68m短軸3.15m確認面からの深さは東壁側で55cmを測る。P₁～P₄が主柱穴で、炉は北側柱穴間の内側に位置する。この炉は2基が一部重複した状態で検出されたが、炉石の位置から判断すると北側の炉が新しいと考えられる。炉の位置と反対側の壁際には一対の入口施設用ピットが、またその東側からは周囲に高まりを持った貯蔵穴が検出されている。

出土遺物は比較的少ないが、貯蔵穴付近に土器片の集中が確認され、住居址中央付近からは甕が横転した状態で出土している。



第17図 2号住居址

3号住居址（第18図）

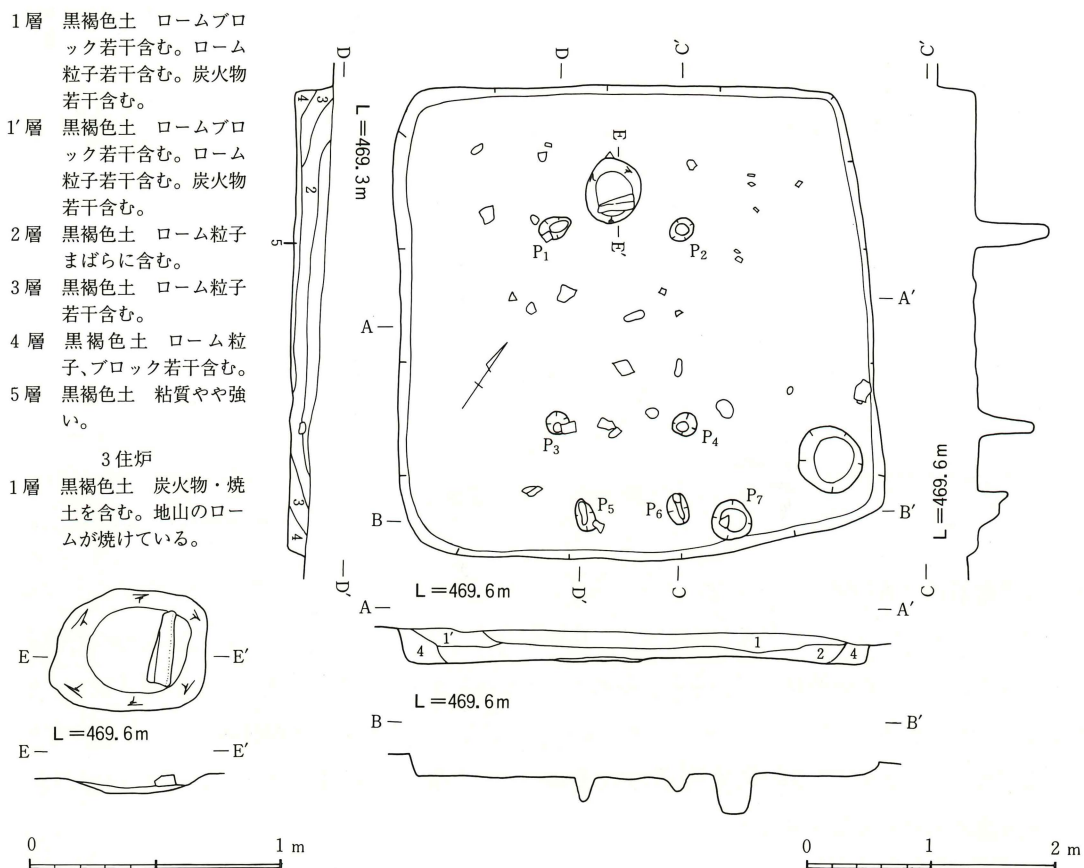
N-6・7、O-6・7グリットに位置する。南東から北西方向に主軸をとる方形プランの住居址で、両軸とも3.75m、確認面からの深さは北壁側で30cmを測る。P₁～P₄が主柱穴で、炉は北側柱穴間の外側に位置する。炉は南側に炉石を持つ地焼炉である。炉の位置と反対側の壁側には一対の入口施設用ピットが、その東側には貯蔵穴が検出された。

出土遺物は比較的少なかったが、東壁際に小型甕が横転した状態で発見された。

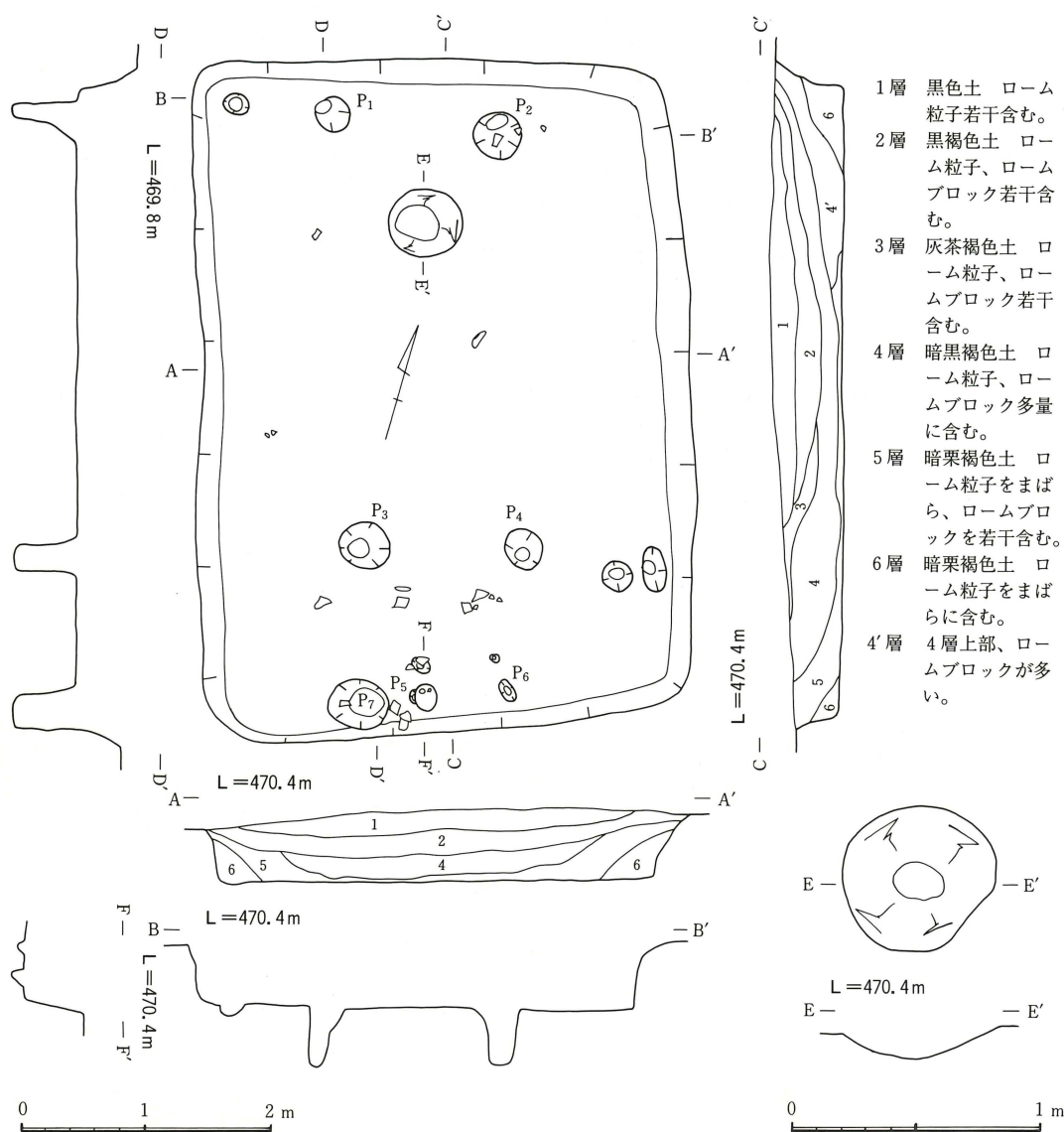
5号住居址（第19図）

P-0・1グリットに位置する。南東から北西方向に主軸をとる長方形プランの住居址で、長軸5.73m短軸3.90m、確認面からの深さは北壁側で30cmを測る。P₁～P₄が主柱穴で、北側の柱穴は北壁に隣接している。炉は中央北壁よりに設置されているが、炉石は検出されなかった。炉の位置と反対側の壁際には、一対の入口施設用ピットが、その西側には貯蔵穴が検出された。

出土遺物は僅かであった。



第18図 3号住居址



第19図 5号住居址

6号住居址 (第20図)

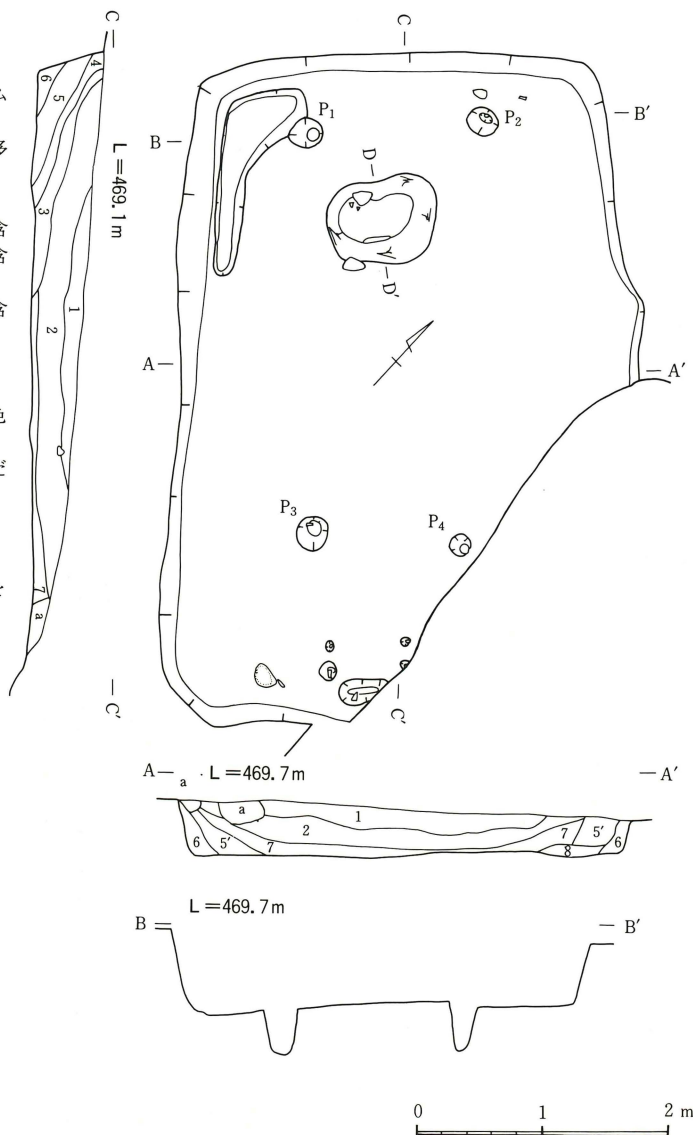
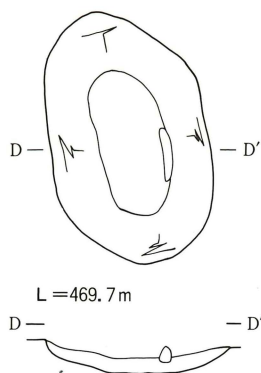
D-5・6、O-5グリットに位置する。東側が残存していないが、南東から北西方向に主軸をとる長方形プランの住居址と想定され、長軸5.28m短軸3.66m、確認面からの深さは北西側で51cmを測る。P₁~P₄が支柱穴で、2本とも壁に隣接している。炉は中央北壁側に設置されて、南寄りに偏平な炉石を有する。炉の位置と反対側の壁際には、4本の入口施設用ピットが検出された。

出土遺物は僅かな量であった。

- 1層 黒色土 ローム粒子若干含む。
- 2層 黒褐色土 ローム粒子まばら、ロームブロック若干含む。
- 3層 暗灰褐色土 ローム粒子、ブロック多量に含む。
- 4層 暗灰褐色土 ローム粒子若干含む。
- 5層 暗灰褐色土 ローム粒子まばらに含む。ロームブロック（1cm大）若干含む。
- 5'層 暗灰褐色土 ローム粒子まばらに含む。
- 6層 灰褐色土 ローム粒子まばらに含む。炭火物若干含む。
- 7層 黒褐色土 ローム粒子まばら、灰褐色粘質土ブロック若干含む。
- 8層 黒褐色土 灰褐色粘質土ブロックまばらに含む。
- a層 攪乱（暗灰褐色土）。

6 住炉

- 1層 黒褐色土 焼土、炭火物、ローム粒を含む。

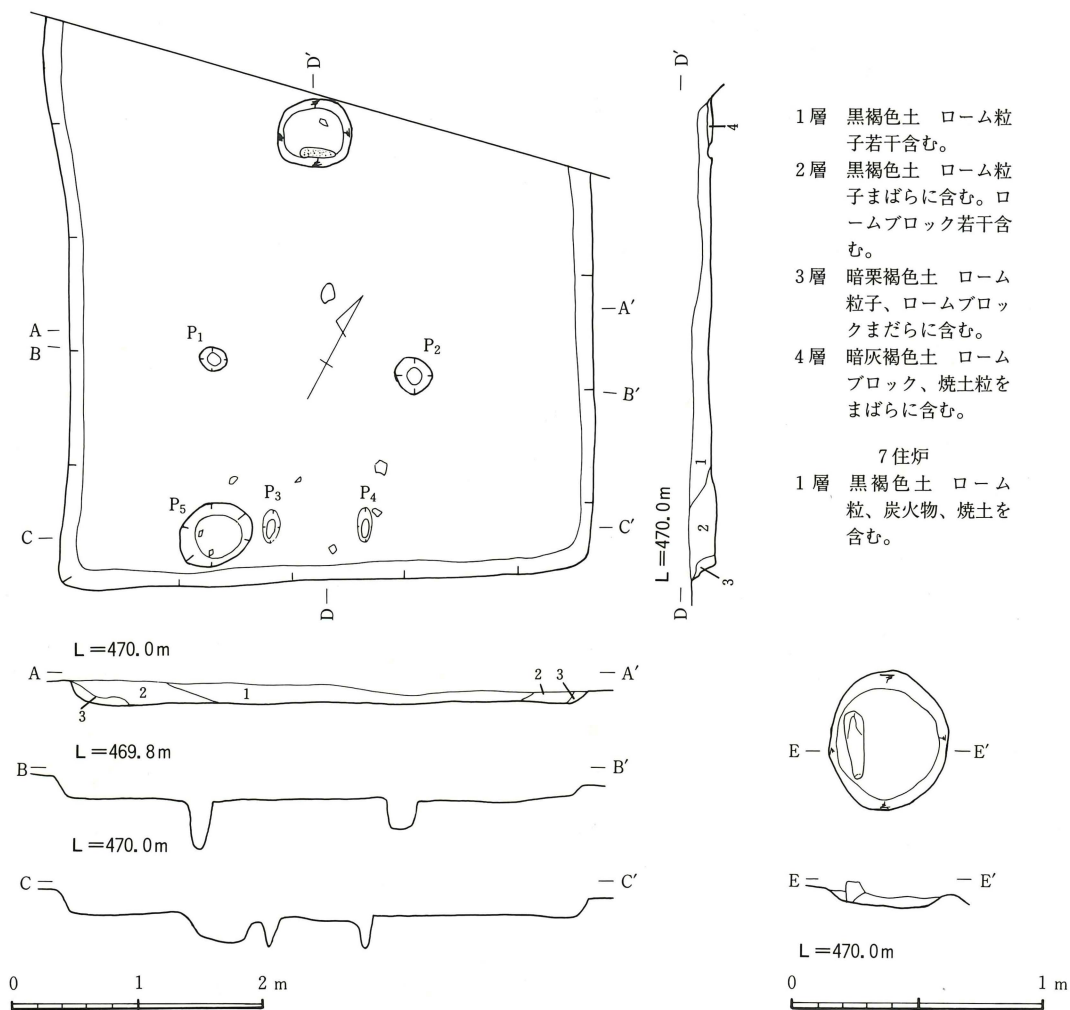


第20図 6号住居址

7号住居址（第21図）

Q-1・2、R-1・2グリットに位置、北側は堀によって切られている。南東から北西方向に主軸をとる長方形プランの住居址と想定され、短軸4.20m、確認面からの深さは南東壁側で21cmを測る。P₁~P₂が支柱穴で、北西側の支柱穴は2本とも壁に隣接していたと想定される。炉は中央北壁側に設置されて、南寄りに炉石が据えられている。炉の位置と反対側の壁際には、一対の入口施設用ピットが検出され。その西側には貯蔵穴が確認された。

出土遺物は僅かな量であった。

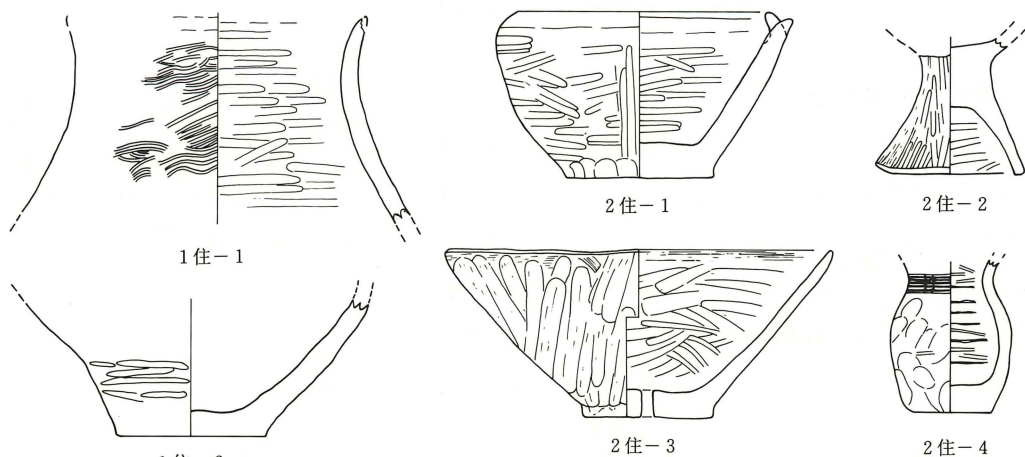
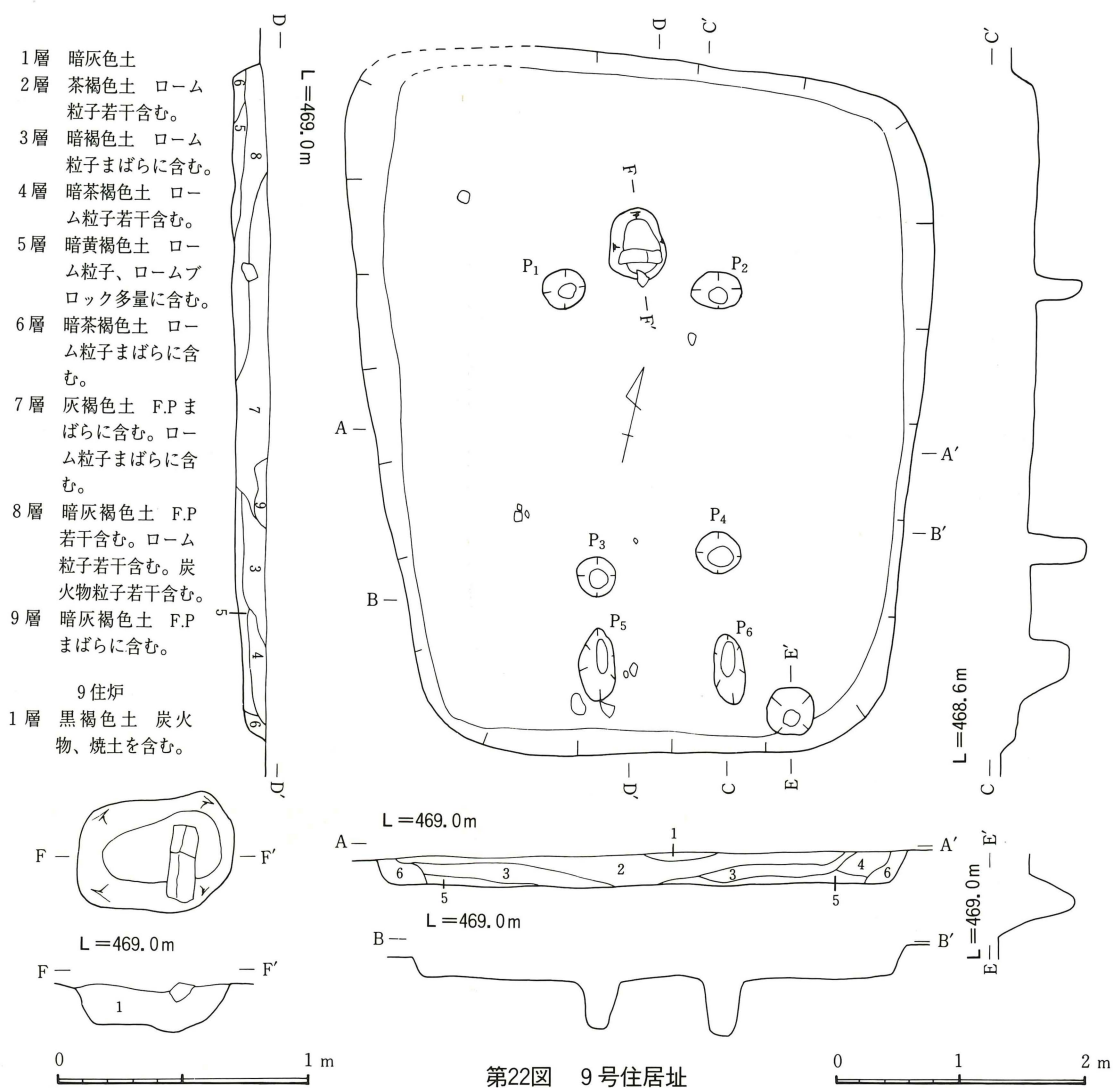


第21図 7号住居址

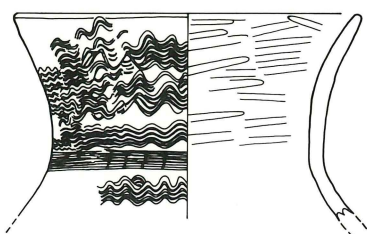
9号住居址 (第22図)

E-5・6グリットに位置する。ほぼ南北に主軸をとる隅丸長方形のプランの住居址で、長軸5.50m短軸4.32m、確認面からの深さは東壁側で26cmを測る。P₁~P₄が支柱穴で、炉は北側柱穴間の外側に位置する。炉の南側には、炉石が設置される。炉の位置と反対側の壁際には、一対の入口施設用ピットが検出され、その東側には貯蔵穴が確認された。

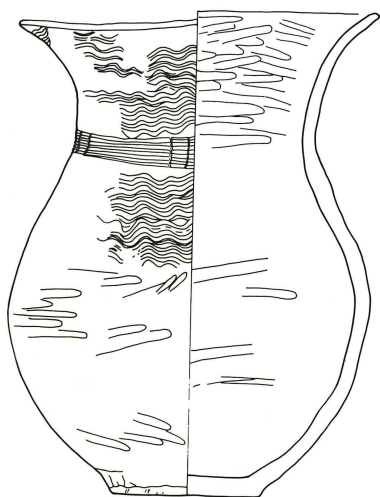
出土遺物は僅かな量であった。



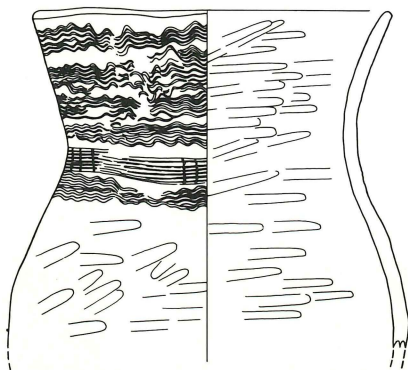
第23図 1・2号住居址出土遺物



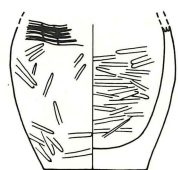
2住-5



2住-7



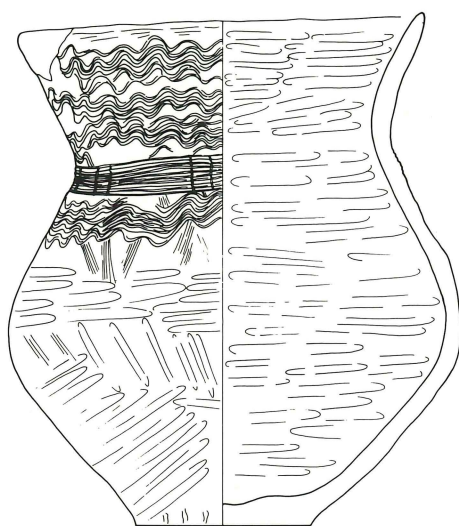
2住-8



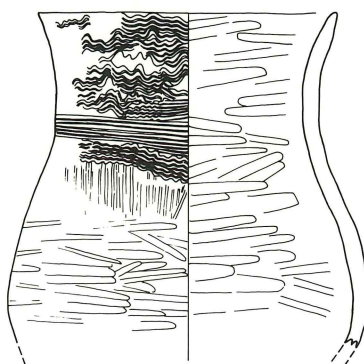
3住-2



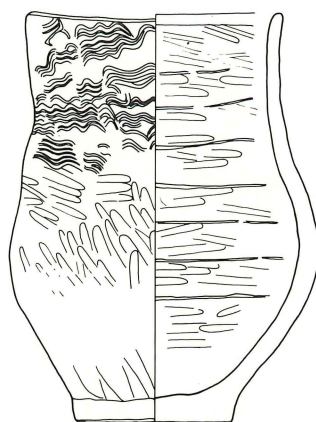
3住-3



2住-6

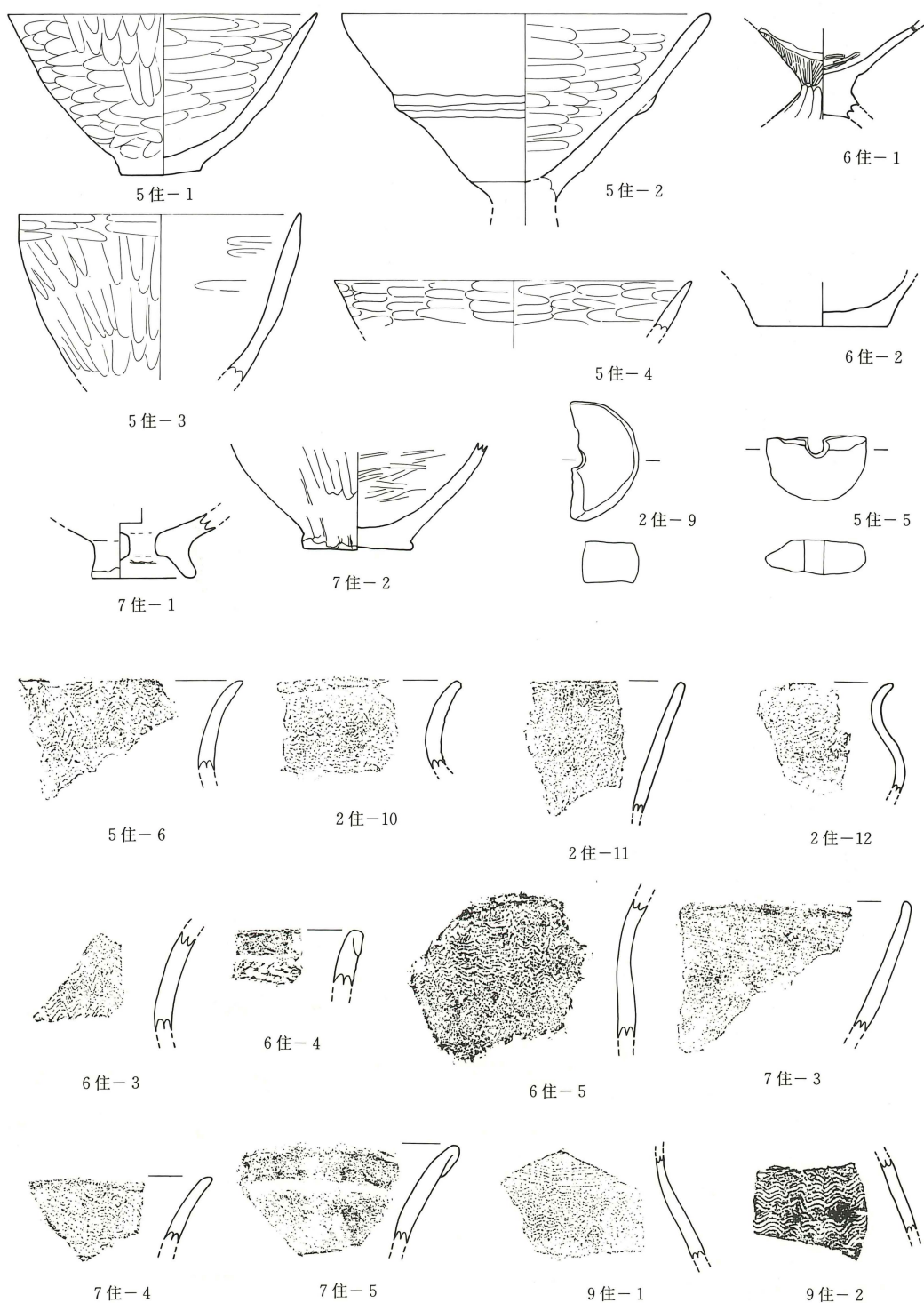


3住-1



3住-4

第24図 2・3号住居址出土遺物



第25図 2・5・6・7・9号住居址出土遺物

[平安時代]

11号住居址（第26図）

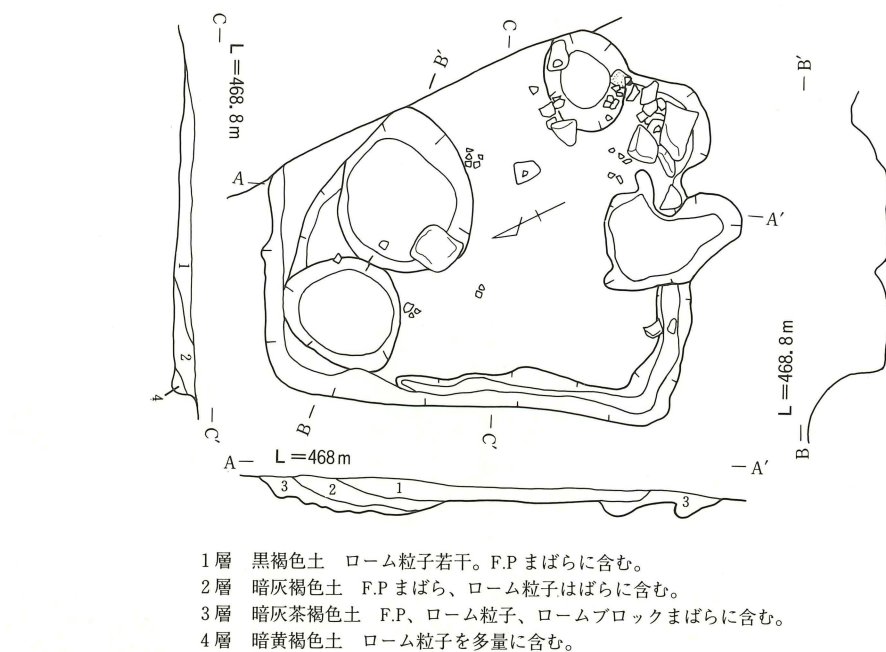
N-11グリットに位置する。東側を一部削平されているが、東辺南側にカマドを持った長方形プランの住居址で、長軸3.40m短軸2.68m、確認面からの深さは西壁側で16cmを測る。東壁から南壁にかけて浅い溝が巡る。柱穴は確認されなかったが、土壌が3基検出された。北側の2基は床下土壌である。

出土遺物は僅かな量であった。

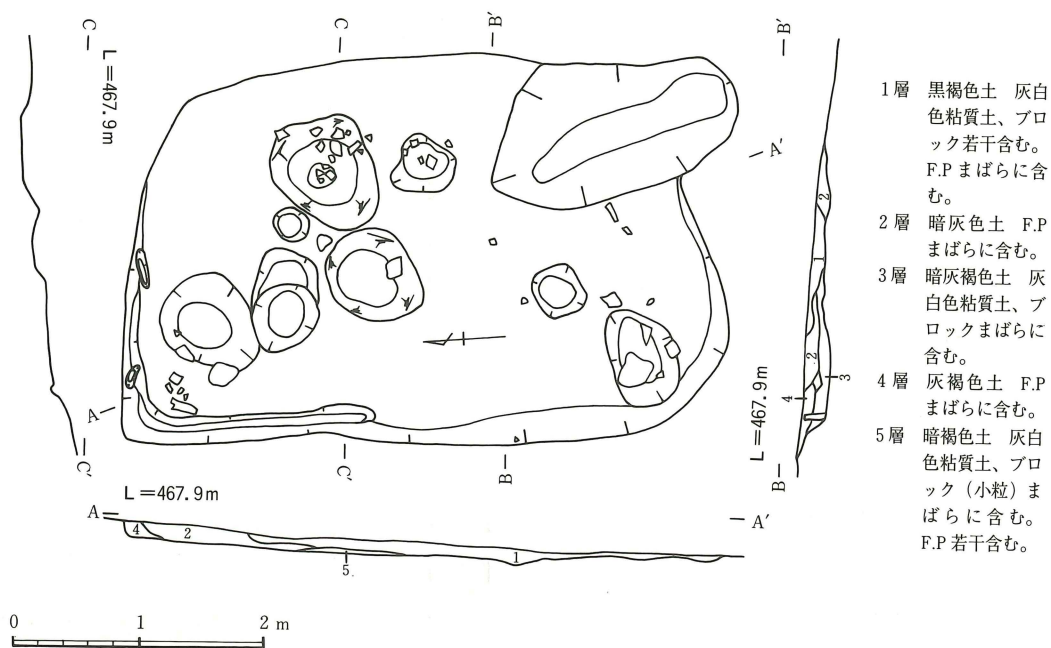
13号住居址（第27図）

O-12・13グリットに位置する。東側から西側にかけて削平されているため不明瞭であるが、東辺側にカマドを持った方形あるいは長方形プランの住居址と想定される。南北4.80m、確認面からの深さは西壁側で19cmを測る。北壁から西壁にかけて一部溝が巡る。ピットは床下土壌状のものが多く、明確な柱穴は検出されなかった。

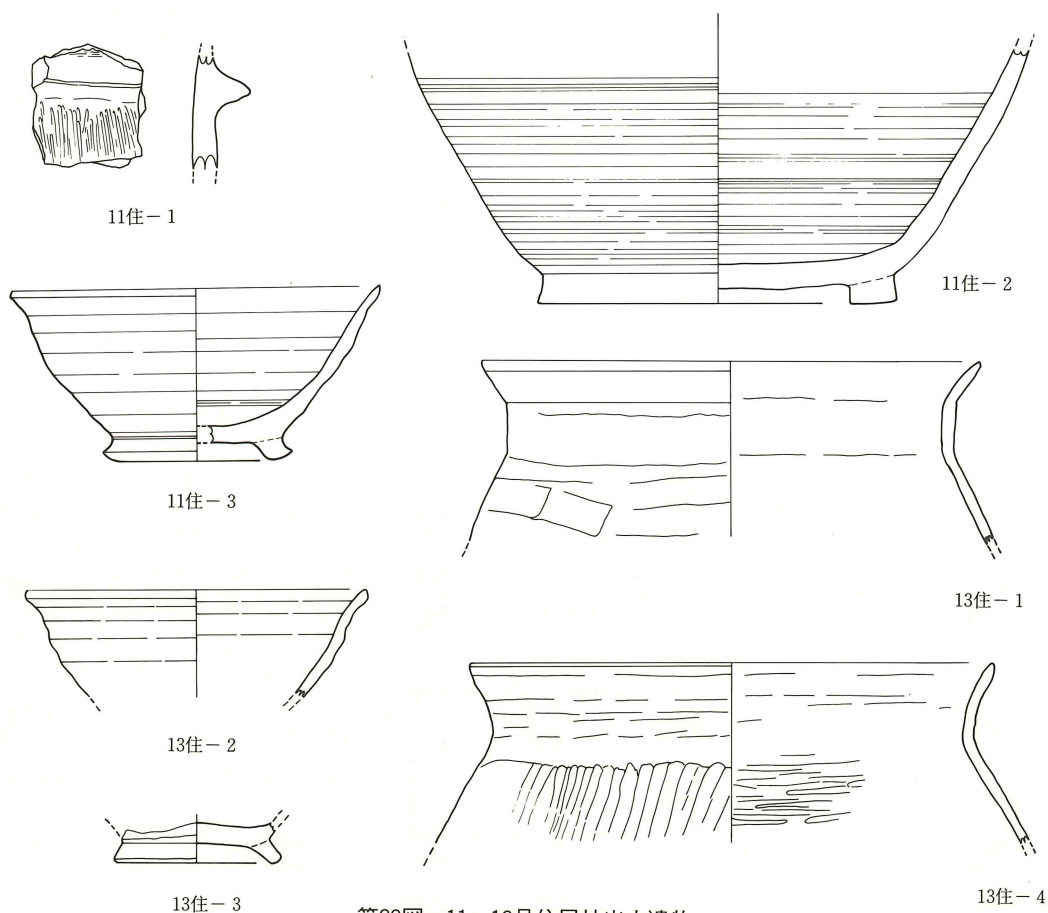
出土遺物は少量であったが、甕の口縁部等が出土している。



第26図 11号住居址



第27図 13号住居址

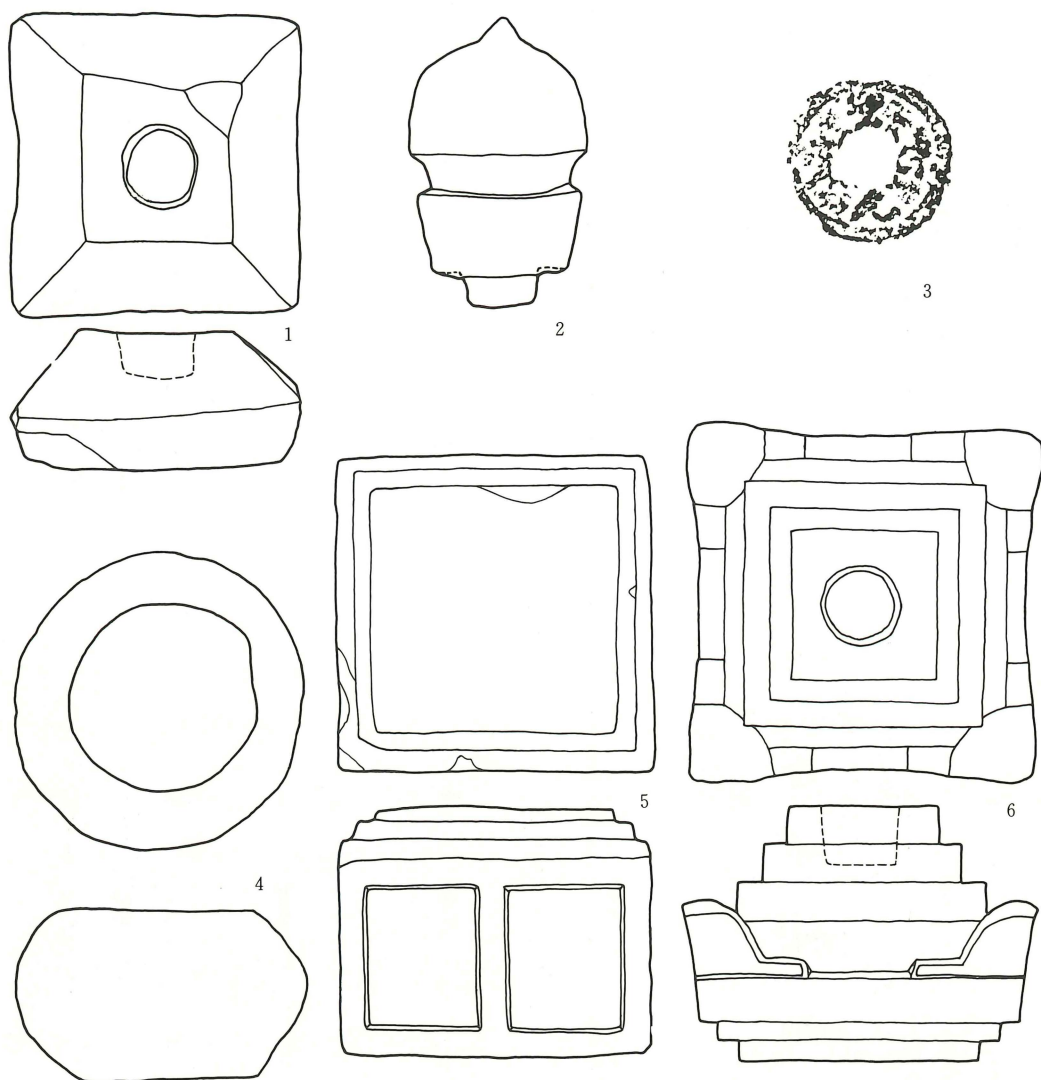


第28図 11・13号住居址出土遺物

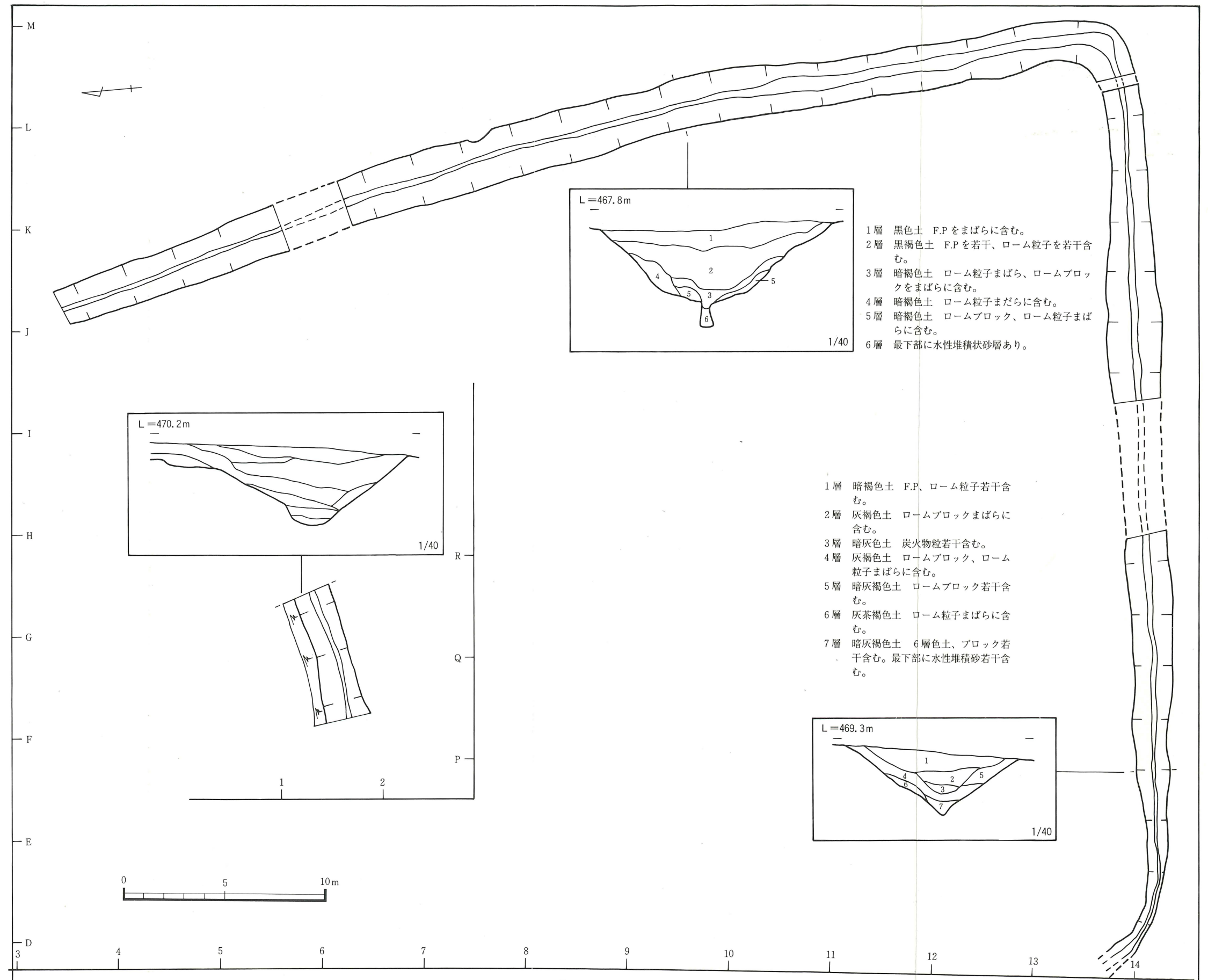
[中世以降]

堀 址

15ライン以北、ほぼ調査区の中央から北側にかけて大きく巡る堀である。完掘できなかったが、調査区西縁の段丘崖先端部から14ラインを東へ45m延び、Mライン上で約80°屈曲し55m北上する。この部分で2本に分岐し、一方はほぼ垂直に東方へ延びる。他方は西方に延びて再び段丘崖先端に達するが、幅は他の部分の半分ほどとなる。確認面での最大幅は2.7m、底面幅は15~40cmを測る。断面形は薬研堀状を呈する。出土遺物は石がほとんどであったが、宋銭・甕の破片等が出土している。調査区西端、10号住西方からは、五輪塔を主とした墓址を検出した。



第29図 堀・その他の出土遺物 (1/6、3のみ1/1)



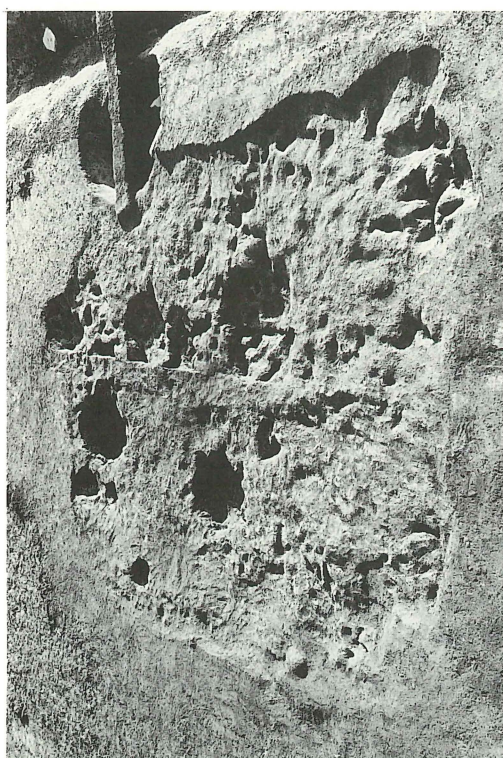
第30図 堀



8号住居址全景



10号住居址遺物出土状況



4号住居址全景



10号住居址遺物出土状況



10号住居址全景



12号住居址遺物出土状況



12号住居址遺物出土状況



12号住居址全景



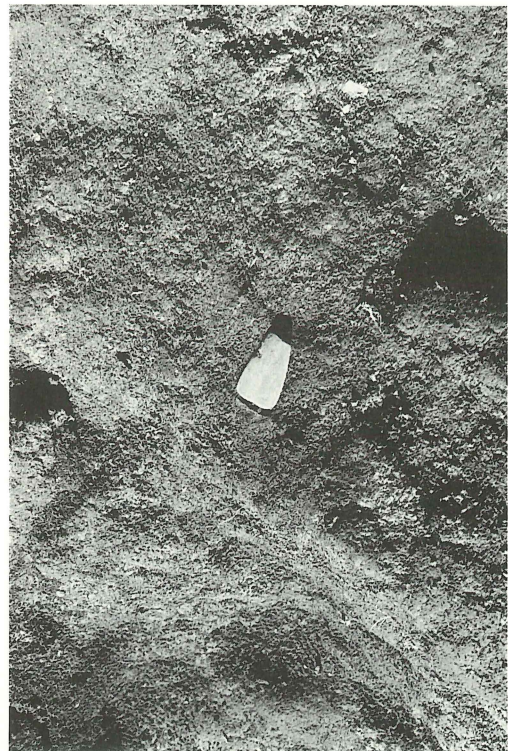
15号住居址遺物出土状況



16号住居址全景



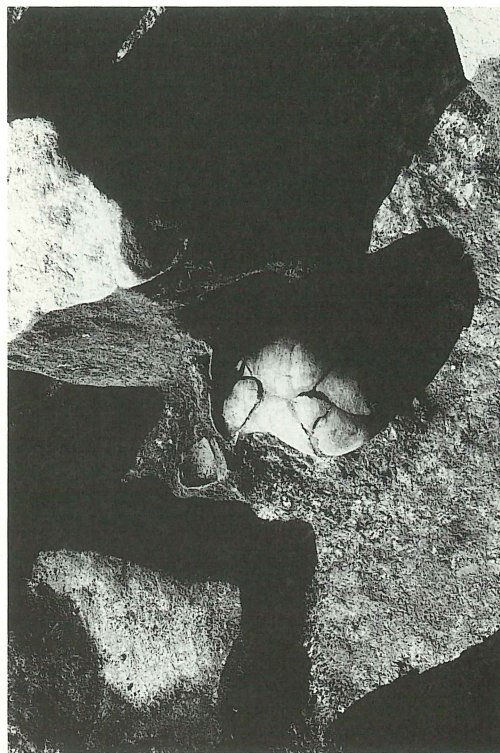
14号住居址全景



16号住居址遺物出土状況



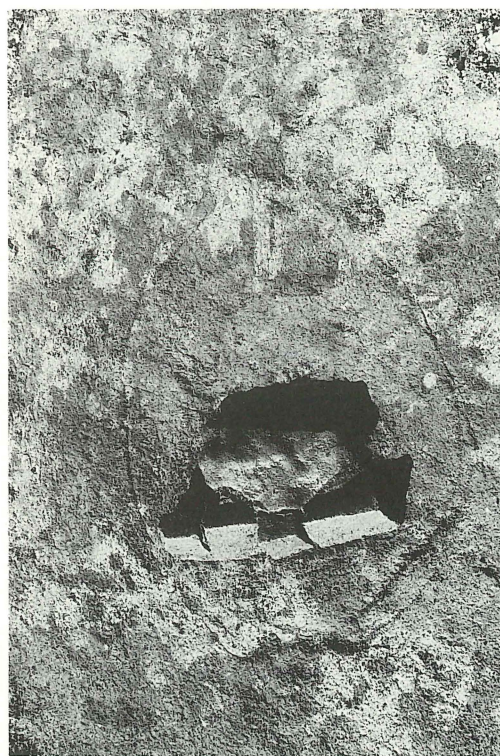
1号住居址全景



2号住居址遺物



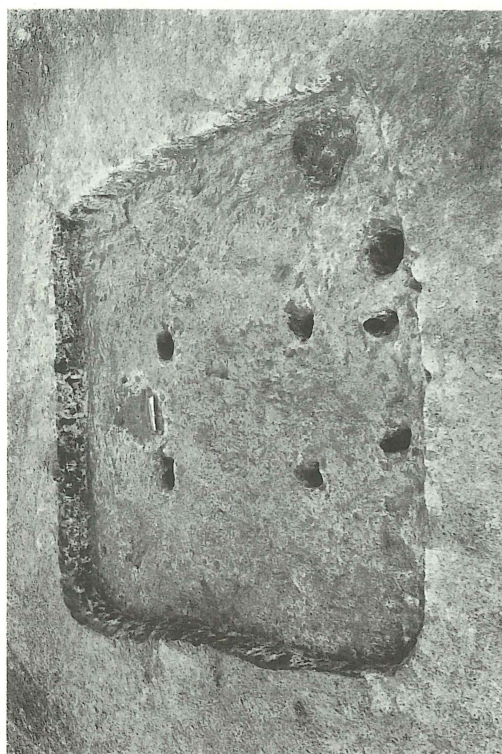
17号住居址全景



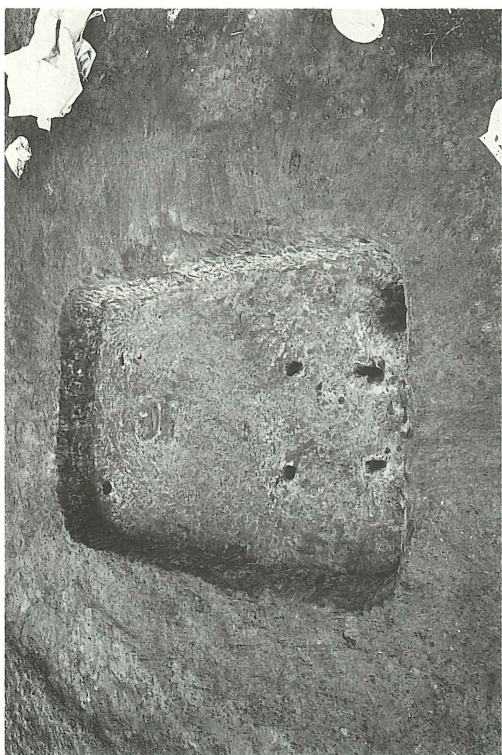
1号住居址炉



2号住居炉



3号住居址全景



2号住居址全景



3号住居址遺物出土状況



5号住居址全景



6号住居址全景



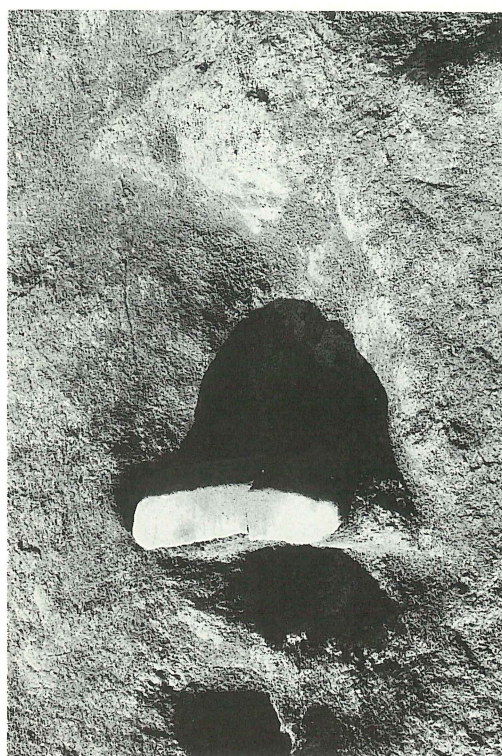
3号住居址炉



5号住居址炉



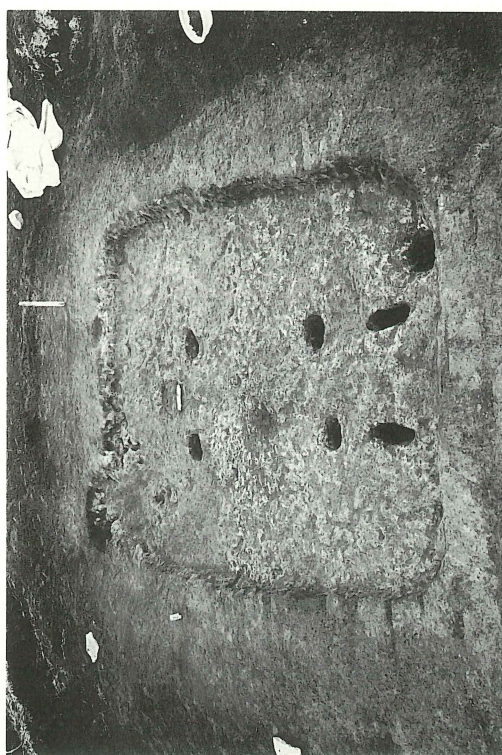
7号住居炉



9号住居址炉



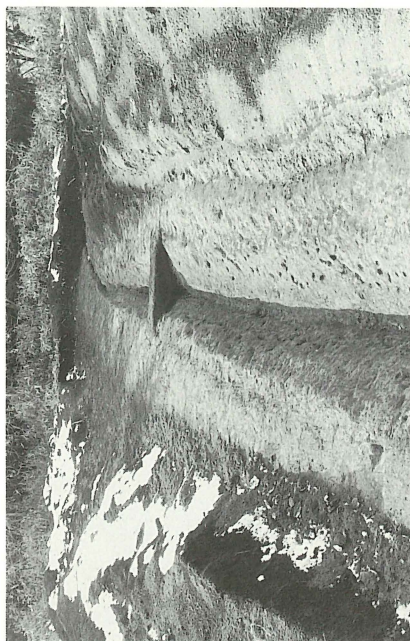
7号住居址全景



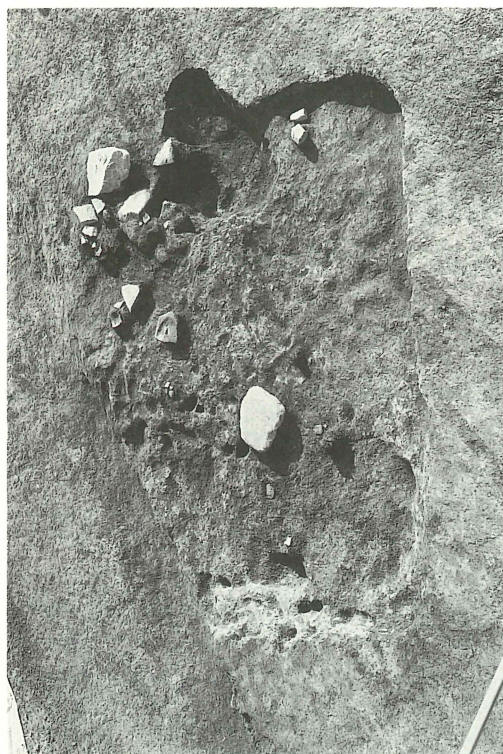
9号住居址全景



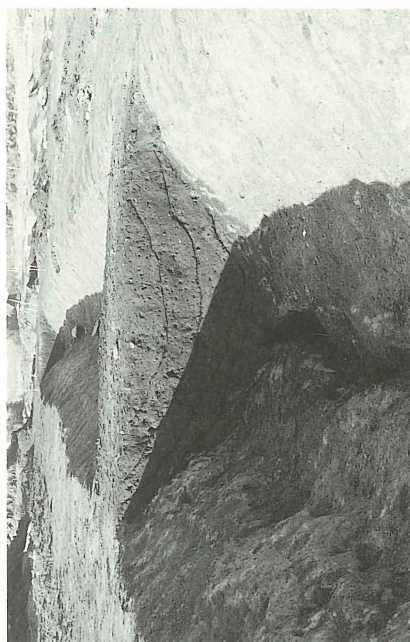
13号住居址全景



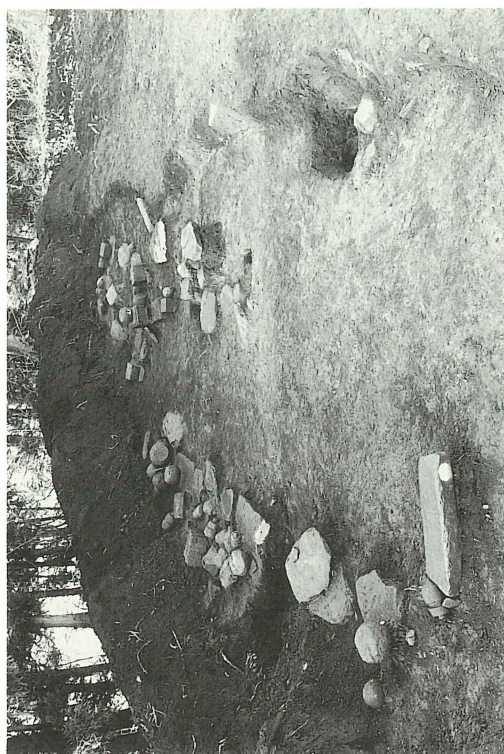
堀 東 辺



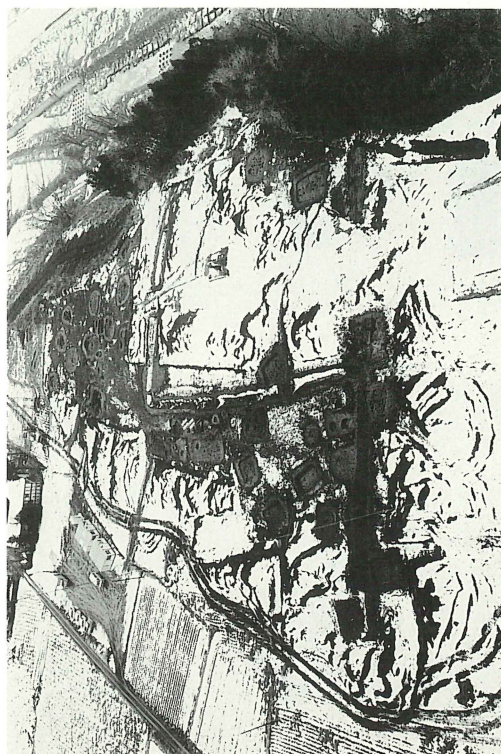
11号住居址遺物出土状況



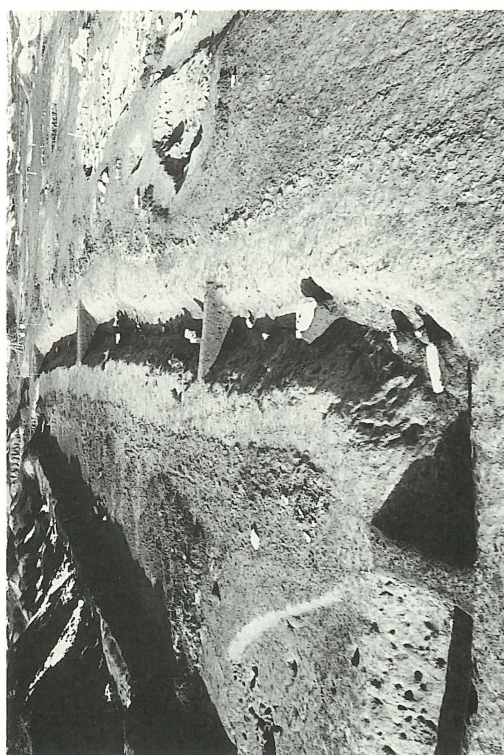
堀セクション



墓 址



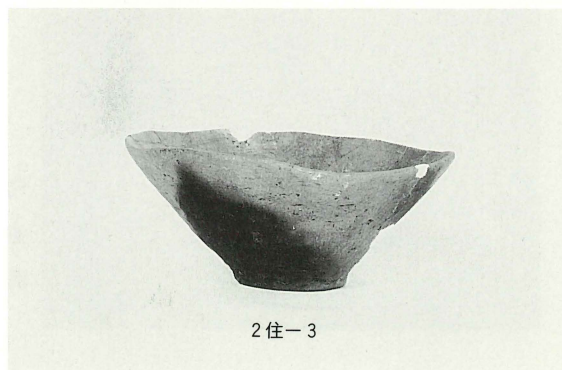
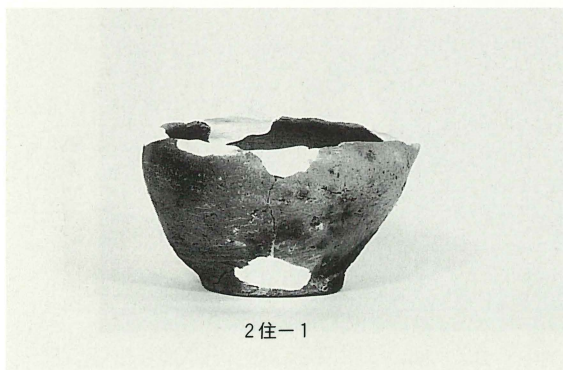
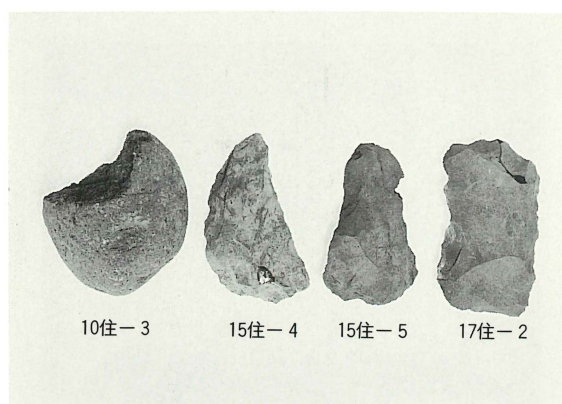
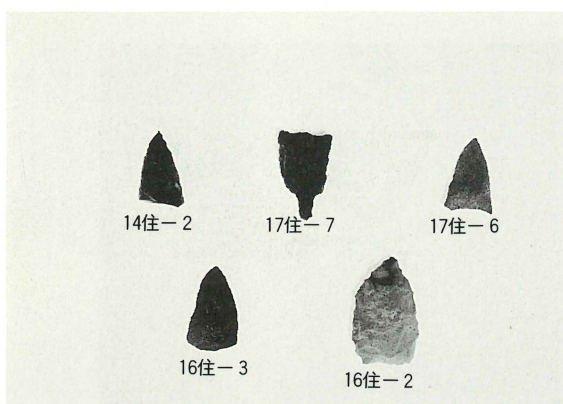
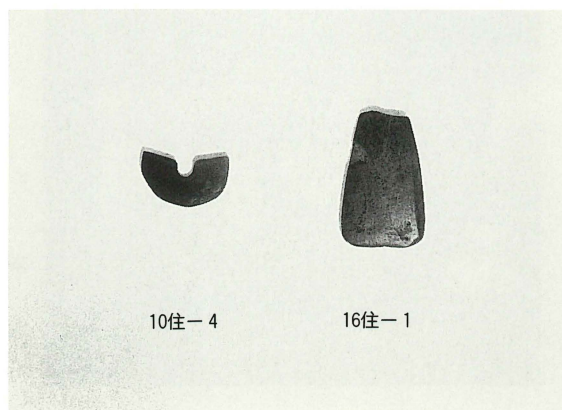
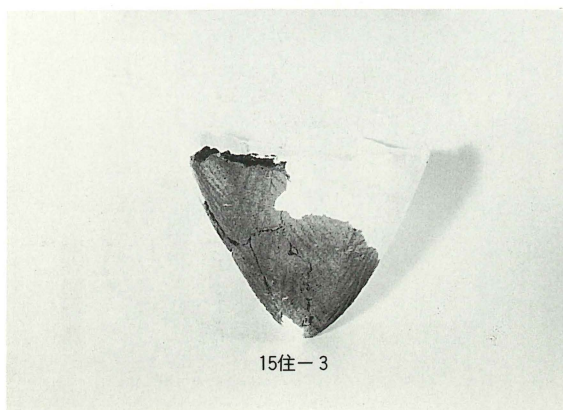
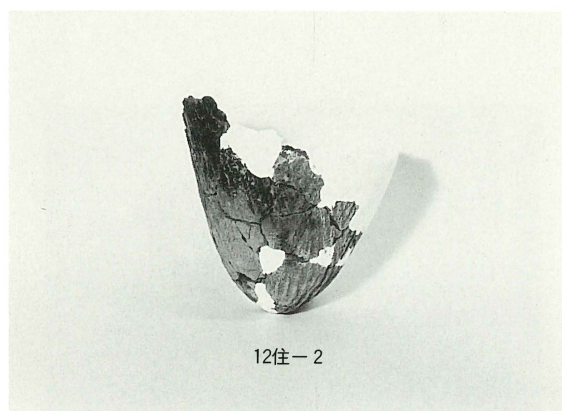
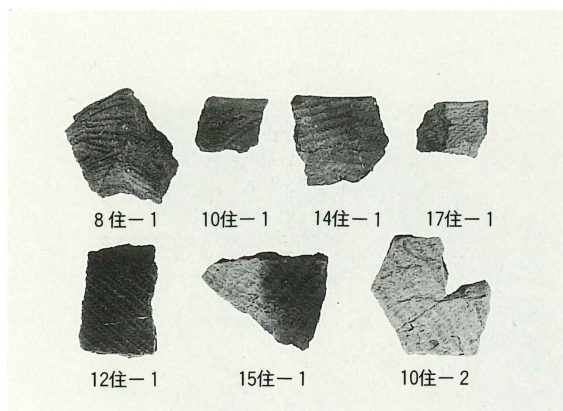
調査区全景

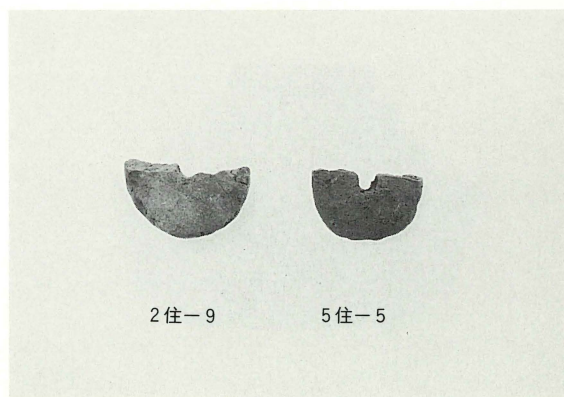
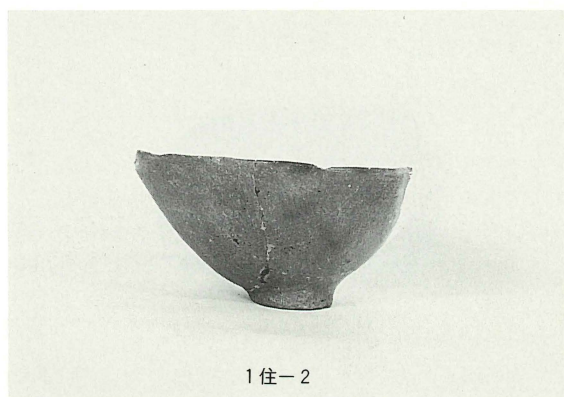
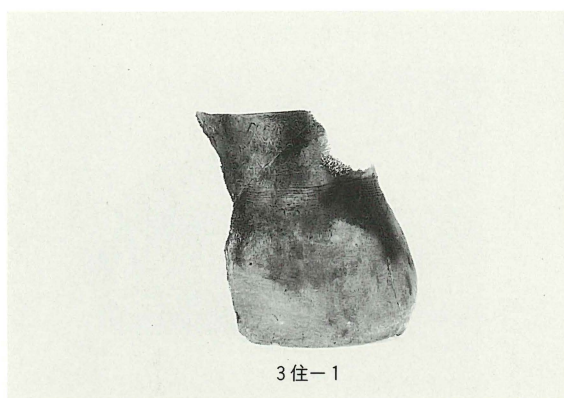
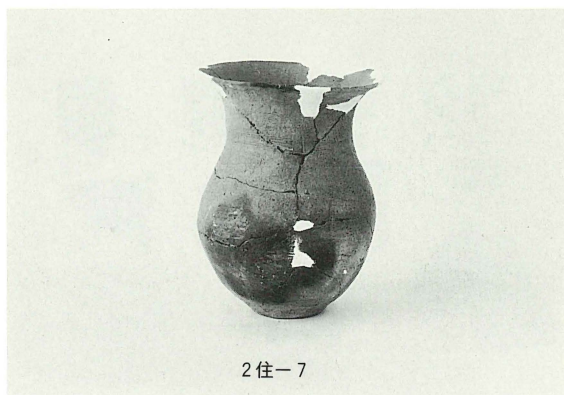
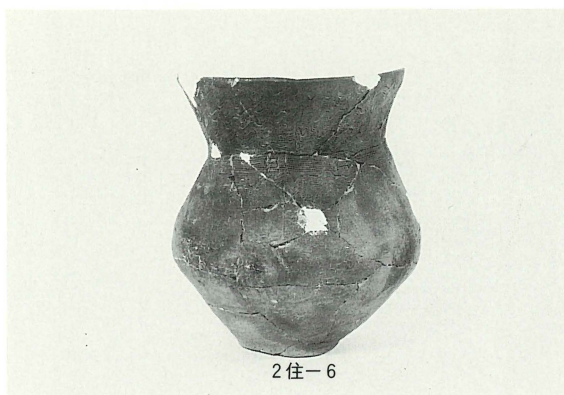


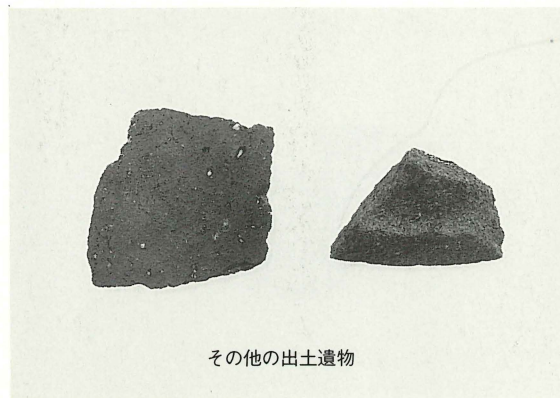
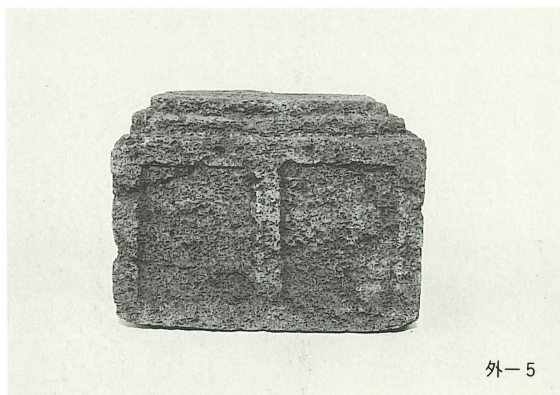
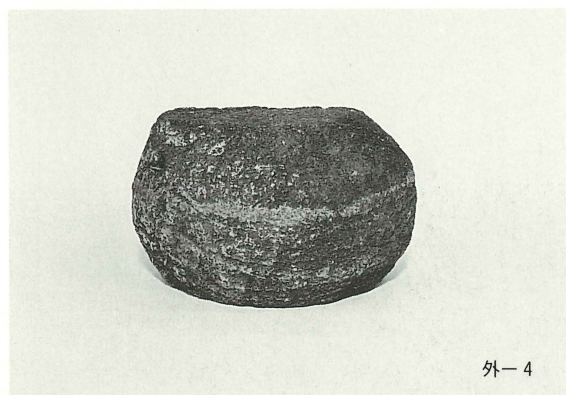
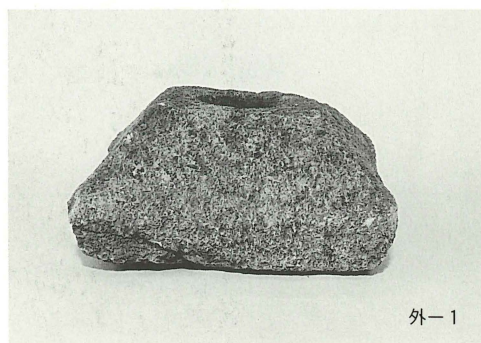
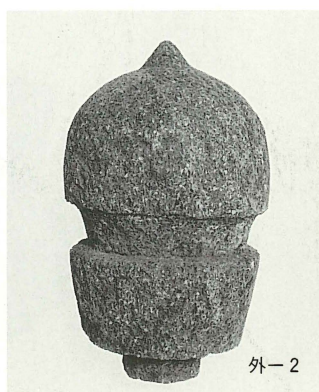
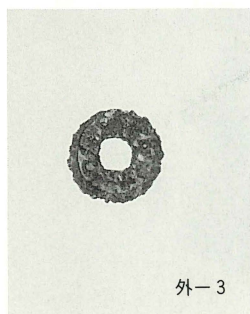
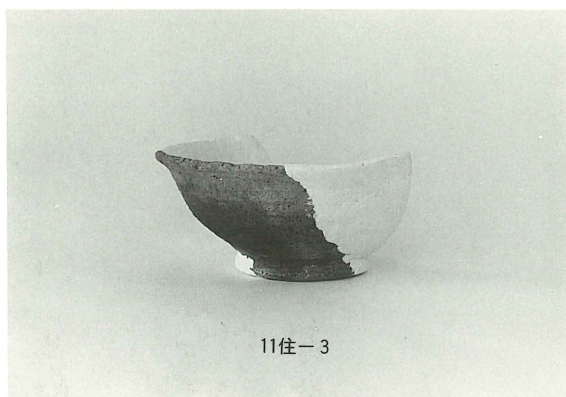
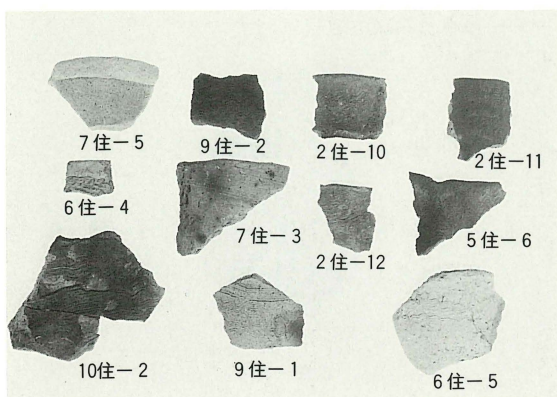
堀 南 辺



五輪塔出土状況







奈良地区遺跡群
(奈良原遺跡)

土地改良総合整備事業奈良地区に
伴う埋蔵文化財発掘調査の概要

印刷 平成3年3月26日

発行 平成3年3月28日

編集・発行 沼田市教育委員会
沼田市西倉内町780
☎ (0278) 23-2111

印刷 上毛新聞社出版局
前橋市古市町1-50-21
☎ (0272) 51-4341

